

# 能代市都市計画マスタープラン 計 画 書



平成 22 年 3 月

能 代 市

## ごあいさつ



恵まれた素晴らしい自然のなか、母なる川、米代川で固く結ばれた能代市と二ツ井町は、地域の生き残りをかける強い意志を持って合併し、市民生活の向上を目指したまちづくりを進めてまいりました。

しかし、今、人口減少や少子高齢化の進行に伴う地域活力の減退や、安心して暮らせる環境への意識の高まりなど、本市を取り巻く社会・経済情勢は大きく変化してきています。

このことから、これらの課題や多様化するまちづくりのニーズに対応し、ふるさと能代をより良く変えていくことが急務となっています。

そのための一つの指針として、このたび、能代市総合計画、能代市国土利用計画を上位計画とし、都市の長期的なまちづくりの方針を総合的・体系的に示した「能代市都市計画マスタープラン」を策定いたしました。

この計画では、先人のたゆまぬ努力によって育まれてきた能代を、次代を担う子供たちへ引き継いでいくために、地域の拠点がしっかりと連携し、地域の持続と都市の均衡ある発展を目指しています。

この計画の策定にあたり、貴重なご意見やご提言をいただきました市民並びに市議会をはじめ、能代市都市計画審議会、能代市都市計画マスタープラン策定委員会の皆様方に心から感謝申し上げます。

人が人をつくり、まちをつくり、この一日一日の連続が夢ある未来へとつながっています。

今こそ、市民一人ひとりが主役となり、皆が感謝と思いやりにあふれ、能代に生まれて良かった、ここで暮らして良かったと思える、誇りと愛着の持てるふるさと能代を築いていくため、ともに勇気ある第一歩を力強く踏み出していきましょう。

平成22年3月

能代市長 齊藤 滋 宣

## <目次>

### 第1章 都市計画マスタープランについて

1-1	都市計画マスタープランについて	1-1
1-2	計画の対象地域	1-1
1-3	目標年次	1-1
1-4	計画の位置づけ	1-1

### 第2章 基本構想

2-1	まちづくりの基本理念	2-1
1	総合計画の目指すもの	2-1
2	市民による能代市の評価からみた課題	2-2
3	キーワードと課題	2-3
4	まちづくりの理念	2-5
2-2	将来都市像	2-6

### 第3章 全体構想

3-1	都市構造の方針	3-1
1	エリア区分の方針	3-3
2	拠点と軸の方針	3-5
	方針1「豊かな自然と共生するまち」を目指す方針	3-7
	方針2「産業と雇用を創出する活力あるまち」を目指す方針	3-9
	方針3「快適に安心して住み続けられるまち」を目指す方針	3-11
	方針4「人が集まり、交流によりにぎわいが生まれるまち」を目指す方針	3-13
	■能代市の将来都市構造の方針図<拠点の配置>	3-15
	■能代市の将来都市構造の方針図<軸の形成>	3-16
3-2	都市の整備方針	3-17
1	「豊かな自然と共生するまち」を目指す都市の整備方針	3-19
2	「産業と雇用を創出する活力あるまち」を目指す都市の整備方針	3-21
3	「快適に安心して住み続けられるまち」を目指す都市の整備方針	3-23
4	「人が集まり、交流によりにぎわいが生まれるまち」を目指す都市の整備方針	3-29

## 第4章 地域別構想

4-1	地域別構想の概要	4-1
1	地域別構想について	4-1
4-2	地域区分	4-2
4-3	地域の将来像と主要なまちづくりの方針	4-3
1	能代中央地域	4-3
2	能代北部地域	4-3
3	能代北東部地域	4-4
4	能代東部地域	4-4
5	能代南部地域	4-5
6	二ツ井地域	4-5

## 第5章 計画の実現化推進に向けて

5-1	都市計画マスタープラン実現・推進の基本的考え方	5-1
5-2	市民主体のまちづくりの支援	5-1
5-3	情報を共有して地域のまちづくりに活用	5-1
5-4	関係機関との連携	5-1
5-5	土地の利用状況の検証	5-1
5-6	土地利用の方針に関する具体的取り組み	5-2

## 第6章 地域の夢地図

6-1	能代中央地域	6-2
6-2	能代北部地域	6-6
6-3	能代北東部地域	6-9
6-4	能代東部地域	6-12
6-5	能代南部地域	6-15
6-6	二ツ井地域	6-19

## 資料

1	策定体制	資料-1
2	策定経過	資料-2
3	むすびのご挨拶にかえて	資料-3
4	策定委員会名簿	資料-4
5	ワークショップ名簿	資料-5

# 第1章 都市計画マスタープランについて

### 1-1 都市計画マスタープランについて

都市計画マスタープランは、都市計画法第18条の2に規定する「市町村の都市計画に関する基本的な方針」として、今後の具体的な土地利用に関して基本的な方針を定めるものです。

本市では、平成18年3月に旧能代市と旧二ツ井町が合併し、平成20年3月には市の最上位計画である総合計画が策定されました。本市をとりまく少子高齢化の進行、雇用の確保などの課題や多様化するまちづくりに対するニーズへ対応していくために新たな都市計画マスタープランを策定し、まちづくりの将来ビジョンと、具体的かつ総合的な都市の整備方針を定めました。

また、本計画の策定にあたっては、総合計画の精神を踏まえ、市民と行政が一体となって地域資源を活かしたまちづくりに取り組んでいくことを目指し、多くの市民に参画していただきました。

### 1-2 計画の対象地域

本市においては、田園や森林等が約8割を占めており、用途地域の周辺には多くの農村地区が点在しています。このような本市の現状から、今後の人口減少や少子高齢化に対応した都市構造やまちづくりの方針を定めていくためには、都市計画区域のみならず、周辺の農村地域も含めて検討していく必要があります。

したがって、本計画においては、市全域を対象地域として検討しました。

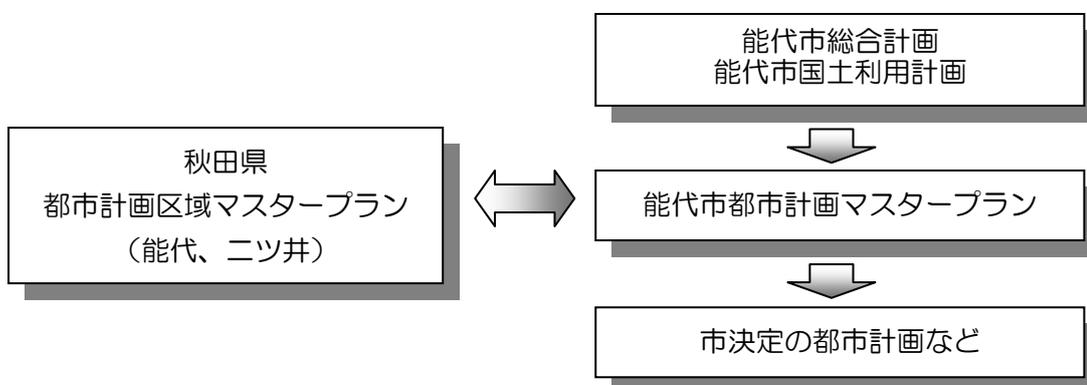
### 1-3 目標年次

本計画の計画期間は、20年間とし目標年次は平成41年（西暦2029年）とします。

なお、本計画は、今後の社会・経済の変化や住民ニーズの変化に対応して、随時、計画の見直しや充実を図り、まちづくりの指針としての性格を維持していきます。

### 1-4 計画の位置づけ

本計画は、県が策定した「秋田県都市計画区域マスタープラン」や市の上位計画をふまえて策定しており、今後、市の決定する都市計画についての指針となります。



## 第2章 基本構想

## 2-1 まちづくりの基本理念

### 1 総合計画の目指すもの

#### (1) 基本理念と基本目標

能代市総合計画では、「能代市民の“和”～人が輝くまち～」「環境で活力を生み出す“環”～たくましく元気なまち～」「未来へつながる“輪”～安心して暮らせるまち～」を基本理念として、「“わ”のまち能代」を将来像に掲げています。

#### 【総合計画の基本目標】

##### 1 輝きとぬくもりのまち

お互いが認め合い、誰もが分け隔てなく、心豊かにいきいきと暮らせることが大切です。

私たちは、健やかに暮らしながら、一人ひとりが誇りを持てるよう、「輝きとぬくもりのまち」をめざします。

##### 2 元気とうるおいのまち

優れた地域資源である自然環境と共生しながら、この地域が生き残っていかねばなりません。

私たちは、地域の可能性を信じ、環境を核とした産業振興で現状を切り拓き、地域経済に活力を生み出すことができるよう、「元気とうるおいのまち」をめざします。

##### 3 安全と安心のまち

安らぎのある暮らしのためには、確かな生活基盤が必要です。

私たちは、身近な地域の課題を共有し、お互いに役割を持ちながら、地域の暮らしが向上できるように、「安全と安心のまち」をめざします。

#### (2) 優先して取り組むべき課題

総合計画では、本市における人口減少と少子高齢化、地域経済の低迷や雇用情勢、厳しい財政事情などの現状に対応し、基本構想に定める将来像を実現するため、基本目標ごとに、優先して取り組むべき課題を位置づけています。

これからのまちづくりにおいて、希望ある将来への道筋を築いていくためには、市民の生活基盤の確立、特に「若者の定住に結びつく産業の創出や雇用の確保」などへの取組が極めて重要として最優先課題として挙げられており、本都市計画マスタープランにおいても、優先的な課題として取り組んでいく必要があります。

#### 【○ 優先課題（● は最優先課題）】

○市民が地域で活躍できる環境の整備 〈基本目標：輝きとぬくもりのまち〉

●若者の定住に結びつく産業創出と雇用確保 〈基本目標：元気とうるおいのまち〉

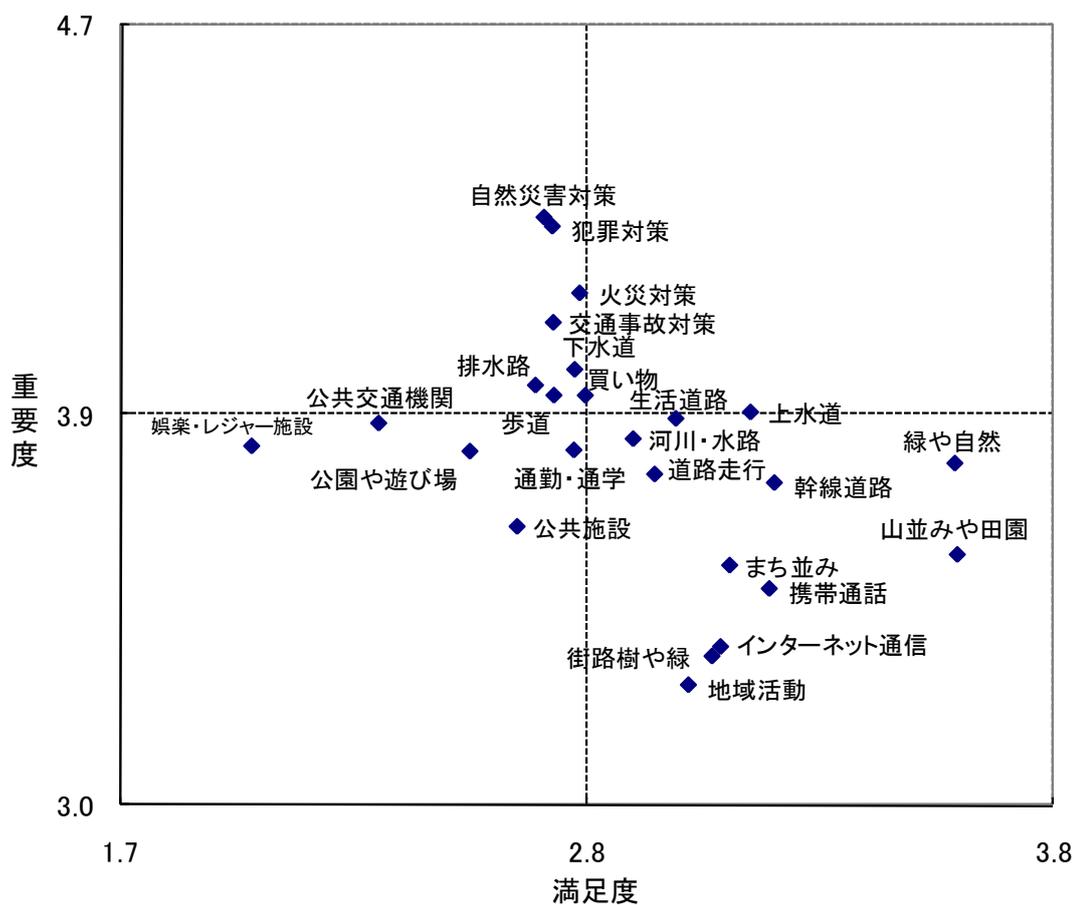
○暮らしの向上と安心の確保 〈基本目標：安全と安心のまち〉

## 2 市民による能代市の評価からみた課題

能代市都市計画マスタープラン市民アンケートにおける「施策の満足度・重要度」からは、以下のことがうかがえます。

- 緑や自然の豊かさ、山並みや田園の美しさなど、自然環境・景観に関しては満足度が高くなっています。
- 防災・防犯に関する事項や、交通事故対策、下水道、排水路、歩道、買い物の便利さ等について重要度が高いのに対して満足度が低く、今後取り組むべき課題といえます。

### 満足度と重要度の関連



### 3 キーワードと課題

総合計画で掲げている基本理念や基本目標、優先課題からは、「誰もがいきいきと暮らせるまち」「産業創出と雇用確保による活力あるまち」「暮らしの向上と安心の確保による安全と安心のまち」といったまちの姿が導き出されます。

また、市民による能代市の評価からは、「緑や自然が豊かで、山並みや田園が美しいまち」「防災・防犯対策などが充実した安全なまち」「生活環境が整備され、買い物などが便利な快適で暮らしやすいまち」といったまちの姿が導き出されます。

これらをもとに、本マスタープランで目指すべきまちの姿を土地利用の視点でとらえ、「【自然】豊かで、【産業】が活発で、快適に【安心】して住み続けられ、【人】が集まるまち」という4つのキーワードに分類し、キーワードごとに現状と課題を抽出・整理します。

キーワード	現状と課題
自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 白神山地をはじめ、豊かな自然は、地域の誇れるものとなっています。</li> <li>■ 小友沼は、国際的に重要な渡り鳥の飛来地として注目を集めています。</li> <li>■ 環境を守るため、人と環境にやさしいまちをつくることを宣言しています。</li> <li>■ 各地域が有する自然などの資源を最大限に利活用していくことが望ましいと考えられます。</li> </ul>
産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 秋田県北部エコタウン計画やバイオマスタウン構想と連携した関連企業の立地などの取組を進めています。</li> <li>■ 物流拠点港として、能代港のさらなる利活用が期待されます。</li> <li>■ 能代東ICの開通などによる、能代工業団地のセールスポイントをアピールしていく必要があります。</li> <li>■ 地元企業や工業団地の進出企業の中には、国内トップクラスの技術力によって、業績を上げている企業もあります。</li> <li>■ 林業から木材産業、そして販売へと、一体的な取組による新たな効果が期待されます。</li> <li>■ 県内の木材業界では、乾燥秋田スギ認証制度の創設や秋田スギ集成材の生産工場の設置等、地場産材の需要拡大に取り組んでいます。</li> <li>■ 農産物の地産地消と地域ブランドの確立に努める必要があります。</li> <li>■ 集落の過疎化や高齢化等から、農地の耕作放棄や森林の管理放棄等、保全管理が難しくなっています。</li> </ul>

## キーワード

## 現状と課題

## 安心

- 少子化や核家族化が進む中、家庭・学校・地域が連携しながら児童を育てる環境づくりが求められています。
- 高齢者世帯の増加等を踏まえ、いつまでも住み慣れた地域で元気に暮らせるような体制づくりが必要となっています。
- 自動車を運転できない高齢者などの移手段の確保が課題となっています。
- それぞれの地域が有する資源を最大限に利活用しながら、市全体として、魅力ある都市として成り立っていることが望ましいと考えられます。
- 火災の予防に努め、火災発生件数の増加を防ぐ必要があります。
- 米代川など河川増水による水害への対応策の検討を進め、地域防災計画や水防計画に反映し、市民に周知していく必要があります。
- 河川整備にあたっては、ゆとりと安らぎのある水辺空間としても配慮しており、地元自治会でも桜の植栽や保全を行うなど、市民の憩いの場の整備に貢献しています。
- 水道未普及地域の解消や簡易水道の統合など、水道の整備や充実が求められています。
- 新たな生活排水処理構想に基づいた下水道の整備推進が求められています。
- 公園は、市民に身近な休息や憩いの空間として利用されるほか、地域交流の場となっています。
- 自治会・町内会から生活環境の整備要望が市に多く寄せられています。

## 人

- 地域住民が主体となって、まちづくり協議会を設立し、さまざまな活動が進められています。
- 地域の民俗芸能や民俗行事など、地域固有の文化は、地域づくりや地域の教育力への効果が期待されています。
- 市民活動の参加意欲の高まりに応え、市民へのボランティア情報の発信や、団体間の連携が必要となっています。
- 中心市街地活性化のため、市民などで構成する協議会で、中心市街地活性化計画を策定しています。
- 郊外大型店の進出については、他の地域に買い物に出かける人を地元につなぎとめたり、他の地域から買い物に訪れる人を地元商店街での交流人口の増加につなげる視点から、商店街や市民、行政による一体となった取組が必要となっています。
- 「バスケットの街のしろ」の知名度を活かしたまちづくりや、宇宙イベントを通じた関係市町との交流など、本市の特色を活かしたまちづくりを進めています。
- 観光客が多く訪れているイベントや伝統行事などは、地域の誇れるものとなり、根強い人気うかがえます。
- 観光客に、魅力ある地域として広くPRしていくためには、広域的連携の強化が必要となります。

## 4 まちづくりの理念

能代市都市計画マスタープランの基本理念を次のように定めます。

豊かな自然と共生するまち

産業と雇用を創出する活力あるまち

快適に安心して住み続けられるまち

人が集まり、交流によりにぎわいが生まれるまち

豊かな自然  
と共生する  
ま ち

本市は、豊かで優れた価値を有する多くの自然環境に恵まれており、これらの自然環境は、貴重な財産として保護・保存し、将来の世代に伝えていかなければなりません。

私たちは、本市の豊かな自然を守り続けていくため、豊かな自然と共生するまちづくりを進めます。

産業と雇用  
を創出する  
活力ある  
ま ち

全国的な少子・高齢化等により人口の自然増は望みにくい状況の中、今後の本市においては、地域の次代を担う若者等の定住を促進していかなければなりません。

私たちは、この地域が生き残り、希望ある将来への道筋を築いていくため、産業と雇用を創出する活力あるまちづくりを目指します。

快 適 に  
安 心 して  
住 み 続 け ら  
れ る ま ち

本市は、過去に多くの災害を経験し、これらを教訓とした災害に強い安全なまちづくりや、誰もが安心して暮らせる生活環境づくりを進める必要があります。

私たちは、地域の暮らしを守り、快適に安心して住み続けられるまちづくりを目指します。

人が集まり  
交流により  
にぎわいが  
生まれる  
ま ち

まちのにぎわいを創出するためには、市外から訪れる人を呼び込むことや、各地域が互いに連携・交流することが必要です。

私たちは、地域の元気につながるよう、地域資源を最大限に活用して、人が集まり、交流によりにぎわいが生まれるまちづくりを進めます。

## 2-2 将来都市像

基本理念で示した本市の目指すべき都市の姿・都市づくりの目標を達成するために、主要な都市機能や道路網、土地利用等の基本的な方向づけを行い、将来あるべき本市の都市像を示すものです。

4つの基本理念ごとの将来都市像の考え方は、以下のとおりです。

### 豊かな自然と共生するまち

本市は、日本海や世界自然遺産である白神山地、米代川の水辺、風の松原や小友沼、きみまち阪県立自然公園や仁鮎水沢スギ植物群落保護林の日本一高い天然秋田杉、市街地を囲む田園、山林等、豊かで優れた価値を有する多くの自然環境に恵まれ、四季折々の景観が人々にうるおいや楽しみを与えています。

今後、この豊かな自然を守り続けていくためにも、自然環境の維持・保全を図るとともに、水質汚濁や騒音、大気汚染等による環境への負荷を軽減し、豊かな自然と共生するまちづくりを進める必要があります。

このような視点から、新たな土地利用については、原則として、現在の用途地域内への誘導を図ります。

また、用途地域をとりまく田園や山々などの自然は、市民が都市生活を営む上で欠くことのできないものとして保全・活用し、緑豊かな都市の形成を目指します。

### 産業と雇用を創出する活力あるまち

本市では、大型風力発電施設及びバイオマス発電施設の稼働や、石炭灰と廃プラスチックを使用したコンクリート代替製品の製造企業が立地するなど、着実に環境・リサイクル産業が育ちつつあり、今後、大きく成長していくものと期待されます。このため、本市においては、環境・リサイクル関連産業立地促進のための施策を展開していくことが重要です。

また、地域の発展と人々の生活に欠かせない基本的な産業である農業の振興や、木の良さを生かした林業・木材産業の経営強化や育成など、地域産業の活性化も求められています。

地域の次代を担う若者等の定住を促進するためには、新たな産業の創出や既存産業の振興により雇用を確保し、現状を切り開いていくことが最重要課題であり、本市の土地利用においても最大限に考慮していかなければなりません。

このような視点から、リサイクルポート能代港を中心に、既存工業団地等の未利用地の活用を図りながら、秋田県北部エコタウン構想と連携した資源リサイクル産業の立地を目指すとともに、能代東 IC 付近については、交通機能を最大限に活用しながら、地域全体の発展へとつながる土地利用を目指します。

## 快適に安心して住み続けられるまち

本市は、大火、洪水、地震等、過去に多くの災害を経験してきました。これらを教訓とし「燃えないまちづくり」を目指した都市計画事業、堤防整備や護岸工事などの治水事業、公共施設及び都市基盤の耐震化等さまざまな施策が進められてきましたが、今後も災害に強い安全・安心なまちづくりを推進していきます。

また、厳しい財政状況を踏まえながらも、少子高齢化や人口減少に対応した地域の生活利便性の向上も図らなければなりません。

このような視点から、現在、人が住んでいる各地域の都市基盤を最大限に利活用しながら、一つの地域で満たされない機能については、他の地域との連携により充足することにより、住み慣れた地域に住み続けられることを目指します。

また、そのために、公共交通機能充実等も含めた生活道路ネットワークの構築を目指します。

## 人が集まり、交流によりにぎわいが生まれるまち

まちのにぎわいを生み出すには、情報を発信し、広域からの人の交流を増加させるとともに、地域間の交流ネットワークを形成していくことが重要です。

このため、能代地域においては、子供から高齢者まで気軽に集える、本市の顔としてふさわしい中心市街地の活性化、二ツ井地域においては、中心部を核とした、にぎわい創出や地域づくりを推進し、それぞれの地域が共に連携しながら、活力に満ちたにぎわいを生み出せるまちづくりを進めていく必要があります。

このような視点から、港や空港、鉄道及び高速道路などの広域交通体系の整備・活用を促進し、広域的な集客を目指した土地利用を図りながら、中心市街地への人の流れを生み出し、交流やにぎわいのあるまちづくりを目指します。

## 第3章 全体構想

### 3-1 都市構造の方針

本市においては、まちづくりの理念として、「豊かな自然と共生するまち」「産業と雇用を創出する活力あるまち」「快適に安心して住み続けられるまち」「人が集まり、交流によりにぎわいが生まれるまち」の4つの基本理念を掲げています。

このため、次の都市構造により持続可能で快適な都市の形成を目指します。

#### 1) エリア区分の設定

本市は、市街地の周辺を田園や森林等の豊かな自然に取り囲まれた良好な都市環境を形成しており、これを維持していくことが、市民にとって住みやすく、訪れる人にとっても魅力的なまちへとつながります。

また、本市の最優先課題である産業と雇用を創出していく際も、こうした都市環境と調和しながら市の均衡ある発展を目指していかなければなりません。

このため、豊かな自然を保全しながら活用するエリアと、産業と雇用を創出するための都市的利活用を図っていくエリア、あるいは都市と自然が調和を図っていくエリアなどの役割を明確に区別する「エリア区分」を位置づける必要があります。

#### 2) 拠点の配置

本市の現状を見ると、市街地が連続して面的に形成されているのではなく、規模の差はあれ、いくつかの地区や集落にその地域の特性に応じた機能の集積がみられます。

また、今後のまちづくりにおいては、自然の保全と活用を図りながら、まちの持続・発展を目指していかなければなりません。

このため、現在、さまざまな機能の集積がみられる地区や集落を中心に、都市機能の維持・整備を考えていく「拠点の配置」が必要となります。

#### 3) 軸の形成

本市のそれぞれの地区や集落は、全ての機能を有しているわけではなく、それぞれが連携することで、不足する機能を補完していく必要があります。

また、産業の振興や、広域からの集客等による交流やにぎわいの創出、自然からの恵みを享受しながら保全・活用していく面からも、それぞれの拠点が相互かつ多面的に連携し、本市の魅力を高めていく必要があります。

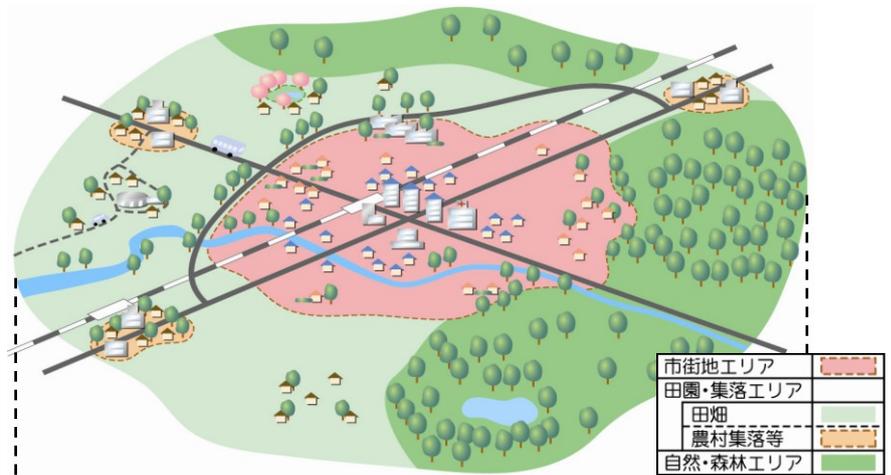
このため、各地区の機能を補完し、さらには市内外の人が交流し、自然との共生を実現するための道路や交通機関により連携を図る「軸の形成」が必要となります。

拠点の配置と軸の形成による土地利用は、直ちに実現出来るわけではありません。事業者や個人が経済的な理由などにより、必ずしも市の考えている都市構造に合致した土地利用が出来ないケースも考えられます。

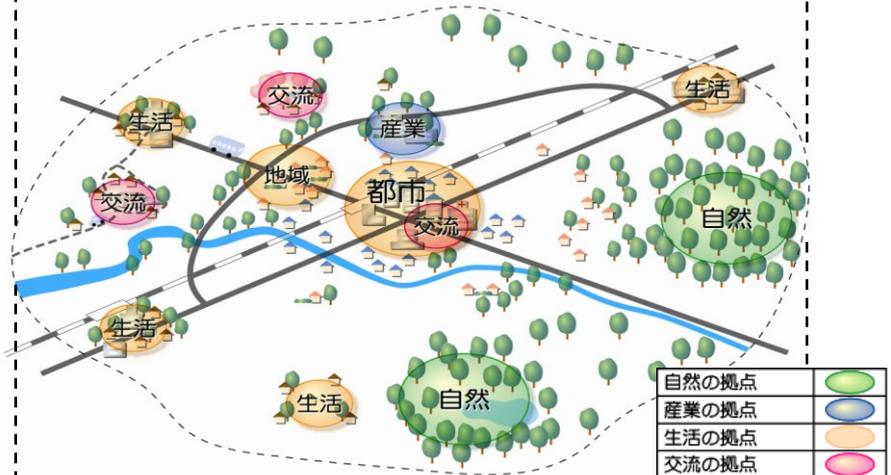
そうした場合であっても、用途地域内の低未利用地等を活用することにより用途地域外の開発を極力抑制し、持続可能で快適な都市形成を目指すものです。

## <都市構造の機能別イメージ>

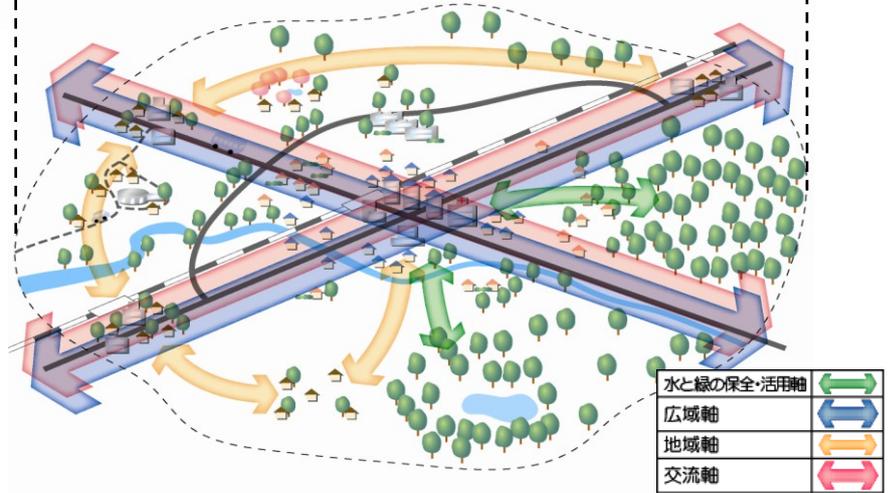
**<エリア区分>**  
 土地利用の考えの基礎  
 となります。  
 利用目的別に大きく区  
 別し「エリア区分」と  
 呼びます。



**<拠点>**  
 機能の集積や維持・高  
 度化を目指し、まちづ  
 くりを考えていく地区  
 や集落を「拠点」と呼  
 びます。



**<軸>**  
 拠点の機能を高めるた  
 めに連携する道路など  
 を「軸」と呼びます。



以上の方向性を踏まえ、「1 エリア区分の方針」と「2 拠点と軸の方針」を各々示して  
 いきます。

## 1 エリア区分の方針

豊かな自然と共生しながら、まちの維持・発展を目指すためには、自然的役割と都市的役割などの機能を明確に分けて位置づけながら、それぞれの特徴を活かし調和のとれた都市構造となるよう方向付けしていくことが重要です。

このため、現状を踏まえ、市街地を整備・誘導すべきエリアや、自然を保全・活用すべきエリアなどに区分し、各々のエリアが持つ特性に充分配慮した土地利用の方針を示す必要があります。

以上のことから、土地利用の方向性として、都市的土地利用を図る「①市街地エリア」、田園と集落の持続を図る「②田園・集落エリア」、自然の保全と活用を図る「③自然・森林エリア」、「④米代川エリア」、の4つを位置づけ、以下にそれぞれの方針を示します。

### ① 市街地エリア

良好な都市環境を維持していくためには、市街地を取り囲む田園や森林と調和を図ることが大切です。

一方、地域全体の発展を目指すうえで、産業の創出や振興、交流やにぎわいの創出へ向け、土地利用を誘導することも重要であることから、都市的役割を担うエリアを位置づけ、環境負荷が少ない都市構造の実現を目指します。

このため、現在の用途地域を市街地エリアと位置づけ、周囲を取り囲む田園や森林などを保全し、市街地エリア内に適正かつ計画的に市街化を誘導します。

### ② 田園・集落エリア

市街地エリアを取り囲む田園は、本市の基幹産業である農業を支えている農地として保全します。

また、既存の集落については住環境の維持・改善に努めることで、田園と集落が調和した暮らしやすいエリアの形成を目指します。

このため、現在の用途地域外の既存集落と農地が混在する地域を田園・集落エリアと位置づけ、新たな宅地開発を極力抑制しながら、ふるさとの原風景の維持を図ります。

### ③ 自然・森林エリア

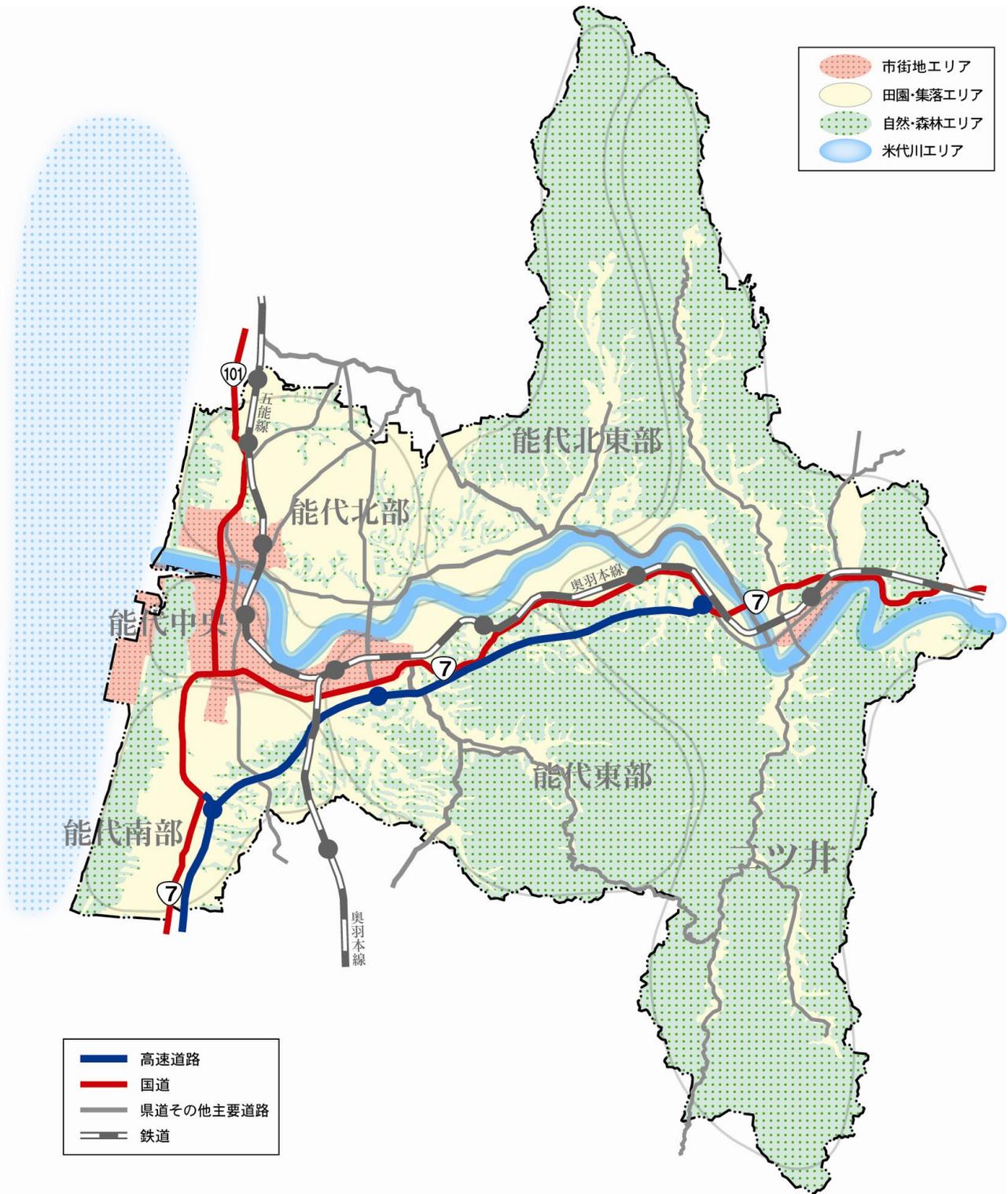
本市を取り囲み、まちの背景となる森林は、本市の重要な産業である林業・木材産業を支えるとともに、環境保全や水源涵養、防災などの多面的な機能を有しています。

このため、現在の森林地域を自然・森林エリアと位置づけ、森林資源の保全や適切な維持管理に配慮しつつ、レクリエーションや環境学習の場などとしての活用を図ります。

### ④ 米代川エリア

市の中央を東西に流れる米代川は、自然・歴史・文化において、上流から下流までのつながりを持ちながら、流域の市民の暮らしを潤し、田園や森林、そして多くの生き物を育ててきた一方、たびたび見舞われる増水によって大きな被害をもたらすという一面も持ち合わせております。

このため、米代川河川区域を米代川エリアと位置づけ、利水及び治水機能の充実を図りながら、地域と一体となった良好な河川環境の保全・活用を図ります。



■都市構造の方針図<エリア区分>

## 2 拠点と軸の方針

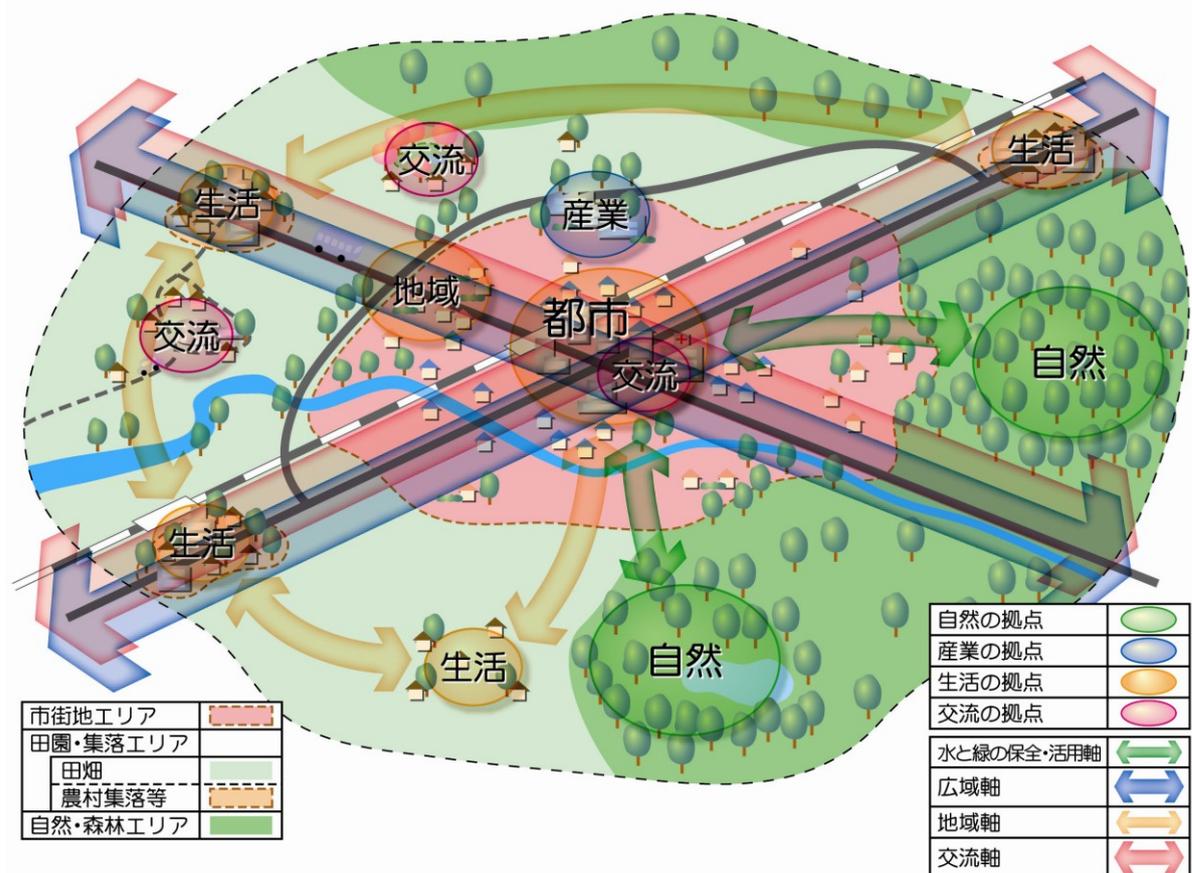
本市においては、市街地が連続して面的に形成されているのではなく、規模の差はあれ、いくつかの地区や集落にその地域の特性に合った機能が集積しています。

したがって、今後目指すべき都市構造においては、これらの各地区や集落を「拠点」と位置づけ、各拠点の規模や特性に応じて、都市機能の維持・整備を図っていく必要があります。

しかしながら、各拠点が全ての機能を充足しているわけではないことから、各拠点が連携し、不足する機能を相互に補完していく必要があります。道路や交通機関等の「軸の形成」が重要となります。

本マスタープランにおける、「拠点の配置」と「軸の形成」については、本市が掲げる4つの基本理念別に様々な機能・役割を持つことから、それぞれの理念ごとに整理していきます。

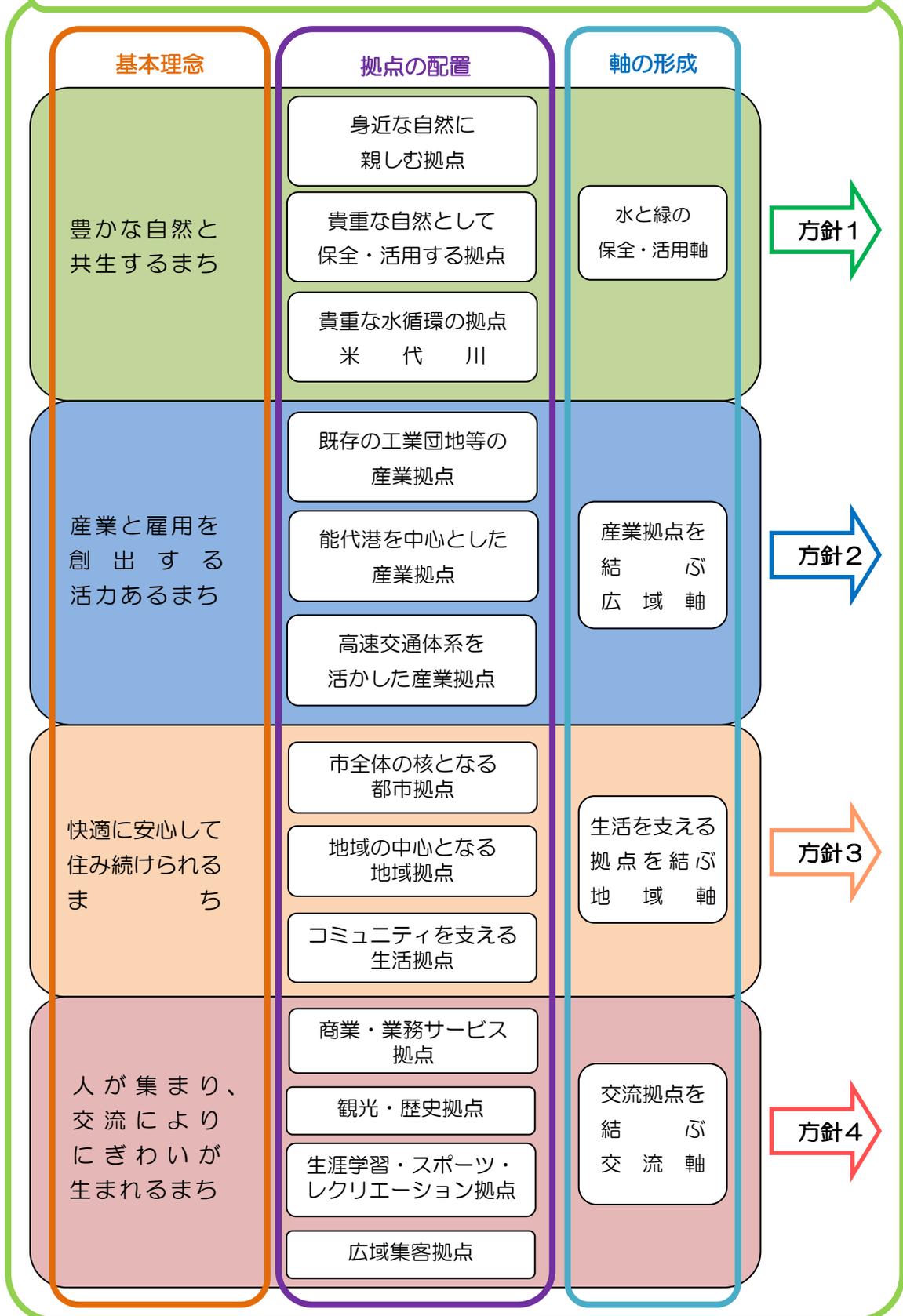
### <都市構造（エリア区分・拠点・軸）の概念図>



※全ての理念を総合的に表すと、このようなイメージになります。

＜能代市が目指す拠点と軸の方針と基本理念との関係＞

能代市民の“和”、環境で活力を生み出す“環”、未来へつながる“輪”  
 「“わ”のまち 能代」



## 方針1

## 「豊かな自然と共生するまち」を目指す方針

本市の恵まれた自然環境の維持・保全を図り、環境への負荷を軽減することで、より良い自然環境となるよう努めながら次世代に継承していくことが重要です。

このため、身近な自然や本市固有の自然、河川等の水辺環境と共生を図る拠点と軸の方針を示します。

## ＜拠点の配置＞

## ① 身近な自然に親しむ拠点

本市の市街地内及びその周辺には、都市公園や河川緑地、風の松原などの緑地・水辺空間が点在しているとともに、きみまち阪県立自然公園や毘沙門憩の森など、雄大な自然とふれあえる緑の空間も多くあります。

これらの緑地や水辺は、生活にうるおいをもたらす空間として重要であるとともに、地球温暖化対策にも貢献するなど環境負荷を軽減する役割も有しており、適正な維持・活用を進めていく必要があります。

このため、風の松原やきみまち阪県立自然公園などを身近な自然に親しむ拠点として位置づけます。

## ② 貴重な自然として保全・活用する拠点

本市は、世界自然遺産である白神山地をはじめ、日本海、米代川、小友沼などの水辺空間、七座山、仁鮎水沢スギ植物群落保護林の日本一高い天然秋田杉など、豊かな自然に囲まれた地域であり、これらの自然環境は地域の誇れるものとなっており、より良い自然環境として次の世代に引き継いでいくことが重要です。

このため、ふたつ白神郷土の森や小友沼などを貴重な自然として保全・活用する拠点として位置づけます。

## ③ 貴重な水循環の拠点、米代川

本市の豊かな自然は、米代川とその支流の清らかな水によって育まれてきました。水は全ての生命の源であり、全ての自然とのつながりを持つことから、今後も大切な水資源として水質保全に努めていくことが重要です。

このため、米代川を、貴重な水循環の拠点として位置づけます。

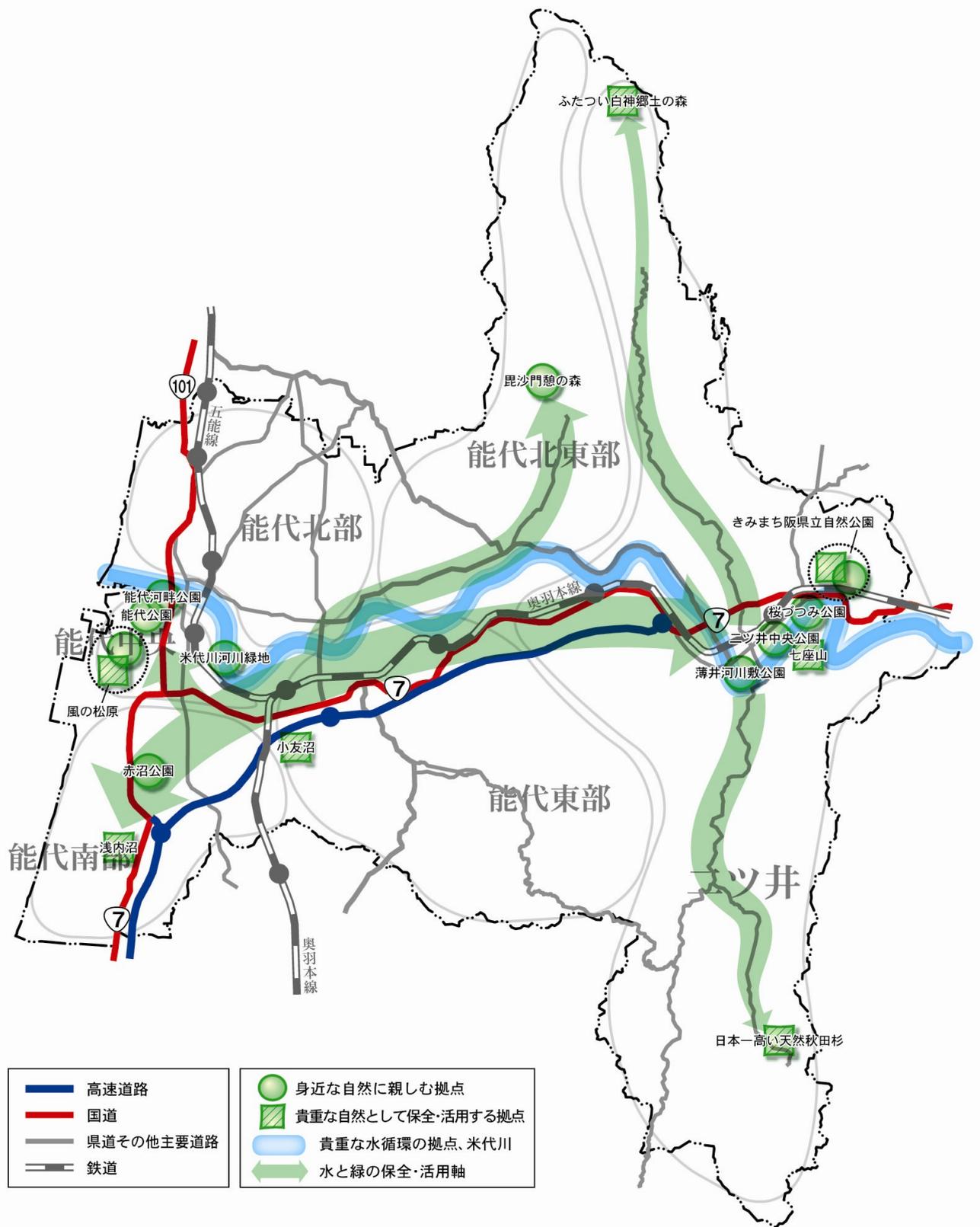
## ＜軸の形成＞

## ④ 水と緑の保全・活用軸

身近な自然は、人が手を加えることで美しい景観を保ち、市民生活にうるおいをもたらすものとなっています。

また、白神山地などの原生の自然が残されている自然環境は、観光資源としての保全・活用も望まれています。

このため、癒しの空間へのアクセスや、自然環境の維持・保全のために必要な道路などを、水と緑の保全・活用軸として位置づけます。



■拠点と軸の方針図〈 自然の拠点配置と水と緑の保全・活用軸〉

## 方針2 「産業と雇用を創出する活力あるまち」を目指す方針

新たな産業の創出や、農林業・商工業など既存産業の振興により雇用を確保し、地域の次代を担う若者等の定住を促進することは、本市の最重要課題です。

そのためには、既存の都市基盤や交通アクセスの優位性を最大限に活用した、工業や地域産業の振興のほか、新たな産業展開を可能とする拠点形成と効率的な交通ネットワーク化を図っていく必要があります。

このような視点から、将来の本市における産業拠点の配置と、拠点間の交通ネットワーク化を図るための連携軸の形成の方針を示します。

### <拠点の配置>

#### ① 既存の工業団地等の産業拠点

能代工業団地や能代木材工業団地等の既存の工業地では、木材関連やリサイクル関連のほか、さまざまな企業が事業展開を図っています。一部には未利用地も残っていますが、交通アクセスの向上など、立地条件の優位性から産業創出の可能性が高まっています。

このため、整備された都市基盤や交通アクセスの優位性を最大限に活用した新たな産業展開を図るため、既存の工業団地等を産業拠点として位置づけます。

#### ② 能代港を中心とした産業拠点

本市では、大型風力発電施設及びバイオマス発電施設の稼働など、環境リサイクル産業の立地が進み、今後、大きく成長していくものと期待されます。

特に、能代港はリサイクルポートの指定を受けた物流拠点港でもあり、秋田県北部エコタウン構想と連携したりサイクル関連産業の立地を図るため、能代港を中心とした産業拠点として位置づけます。

#### ③ 高速交通体系を活かした産業拠点

能代東IC周辺は、交通アクセスの優位性や既存工業団地と近接していることから、開発の可能性が高い地域と予想されます。

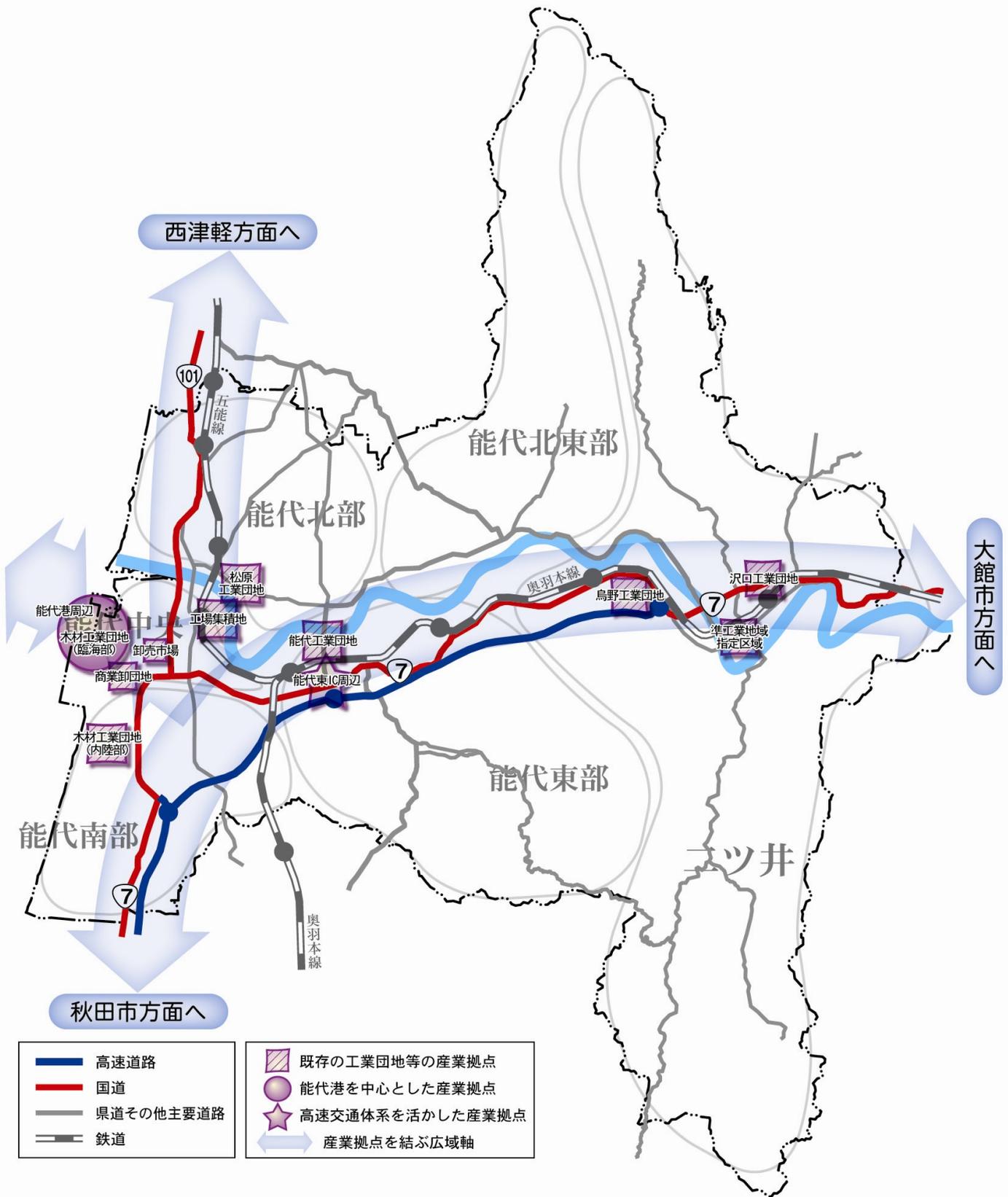
このため、既存の交通機能を最大限に活用し、若者の定住に結びつく産業の創出や雇用の確保、広域からの集客など、地域全体の発展に結びつく産業拠点として位置づけます。

### <軸の形成>

#### ④ 産業拠点を結ぶ広域軸

産業発展のためには、市内の産業拠点と広域都市圏内外との交流と連携を支える交通ネットワークの強化促進が重要です。

このため、産業拠点間や広域都市圏内外とのネットワークを形成する日本海沿岸東北自動車道、国道7号、国道101号、能代港からの海路などを、産業拠点を結ぶ広域軸と位置づけます。



■ 拠点と軸の方針図 <産業の拠点配置と産業拠点を結ぶ広域軸>

### 方針3 「快適に安心して住み続けられるまち」を目指す方針

少子高齢化や人口減少が進むなかで、快適に安心して住み続けられる環境をつくるため、災害に強い安全・安心なまちづくりや、バリアフリー化の推進など地域の利便性の向上等が求められています。

このため、これまでの生活基盤を最大限に利活用しながら、各地域や集落を市民の生活を支える拠点として位置づけ、その配置方針を示します。

また、一つの地域で満たされない機能については、他の地域との連携により充足することが望ましいと考えられるため、各拠点を結ぶ地域軸についてもあわせて方針を示します。

#### <拠点の配置>

##### ① 市全体の核となる都市拠点

能代地域の中心市街地には、上下水道等の生活基盤が整備され、業務サービス施設、市役所等の公共公益施設が集積されており、本市全体の核となる役割を持っています。

このため、中心市街地を市全体の核となる都市拠点として位置づけます。

##### ② 地域の中心となる地域拠点

二ツ井地域の中心部や、東能代地区、向能代・落合地区は、日常的に利用できる商業施設や病院、また、地域の中心となる業務サービス施設等が集積しています。

このため、これらの区域を地域の中心となる地域拠点として位置づけます。

##### ③ コミュニティを支える生活拠点

本市では、小中学校の統廃合が進んでいますが、今まで育まれてきたコミュニティを受け継ぎ、今後も維持していくことが求められます。

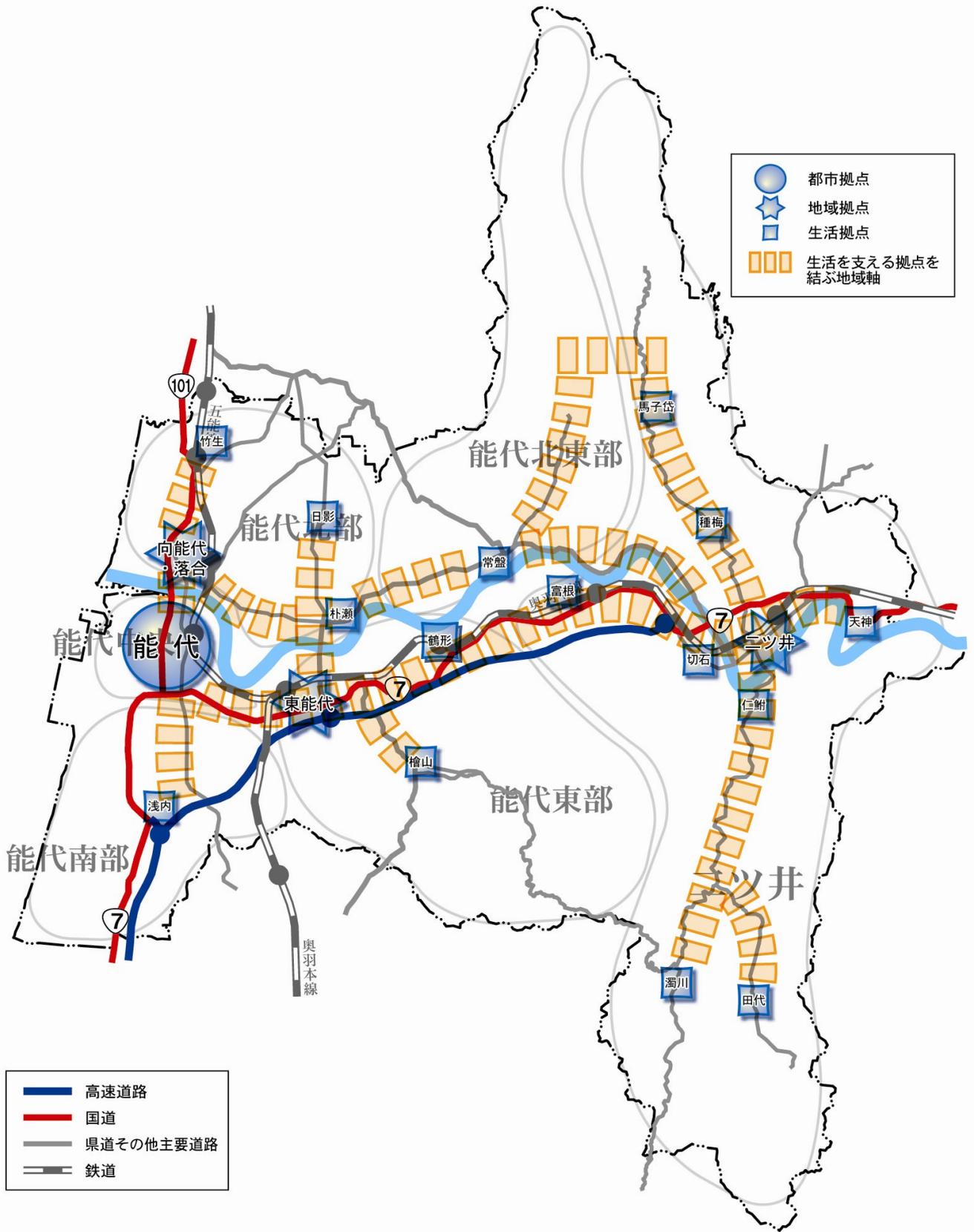
このため、地域コミュニティの範囲を、現在小学校が立地している地区に加え、統合前の旧小学校が立地していた地区と想定し、市民の日常生活を維持していくための中心となる、コミュニティを支える生活拠点と位置づけます。

#### <軸の形成>

##### ③ 生活を支える拠点を結ぶ地域軸

魅力的で暮らしやすいまちづくりのためには、都市拠点・地域拠点・生活拠点が連携し、地域の生活利便性を高めていくことが重要です。

このため、各拠点を結ぶ道路や公共交通機関等を、生活を支える拠点を結ぶ地域軸として位置づけます。



■拠点と軸の方針図<生活の拠点配置と生活を支える拠点を結ぶ地域軸>

## 方針4 「人が集まり、交流によりにぎわいが生まれるまち」を目指す方針

本市には、能代山本圏域の中心都市としての魅力を持つことが求められています。

都市の魅力やにぎわいを生み出すには、情報を発信し、広域からの人の交流を増加させるとともに、地域間の交流ネットワークを形成していくことが重要です。

このような視点から、人が集まり、交流やにぎわいを生み出すための交流拠点の配置について方針を示します。また、これらの拠点間を連携するとともに、広域からの人の交流を支える交流軸の形成についてもあわせて方針を示します。

### <拠点の配置>

#### ① 商業・業務サービス拠点

能代地域の中心市街地には旧来からの商業地が形成されており、行政施設が集約されて立地しています。

また、二ツ井地域の中心部は、商業施設や業務サービス施設が集中しています。

このため、能代地域の中心市街地及び、二ツ井地域の中心部を、市民へサービスを提供する商業・業務サービス拠点と位置づけます。

#### ② 観光・歴史拠点

本市は、豊かな自然や歴史・伝統行事、イベントなどの地域資源に恵まれており、これらを交流の場として活かしながら観光客を呼び込み、にぎわいを生み出すことが求められます。

このため、風の松原やきみまち阪・道の駅、檜山地区などを、観光・歴史拠点と位置づけます。

#### ③ 生涯学習・スポーツ・レクリエーション拠点

生涯学習・スポーツ・レクリエーション施設は、市民の文化活動、健康づくりの場としての機能のほか、各種大会などを通じ、交流を生み出す上でも重要な役割を果たしています。

このため、文化会館や図書館などの生涯学習施設、体育館や野球場、陸上競技場、アリナスなどのスポーツ施設や、海・川・山などの自然を活かしたレクリエーション空間を、生涯学習・スポーツ・レクリエーション拠点と位置づけます。

#### ④ 広域集客拠点

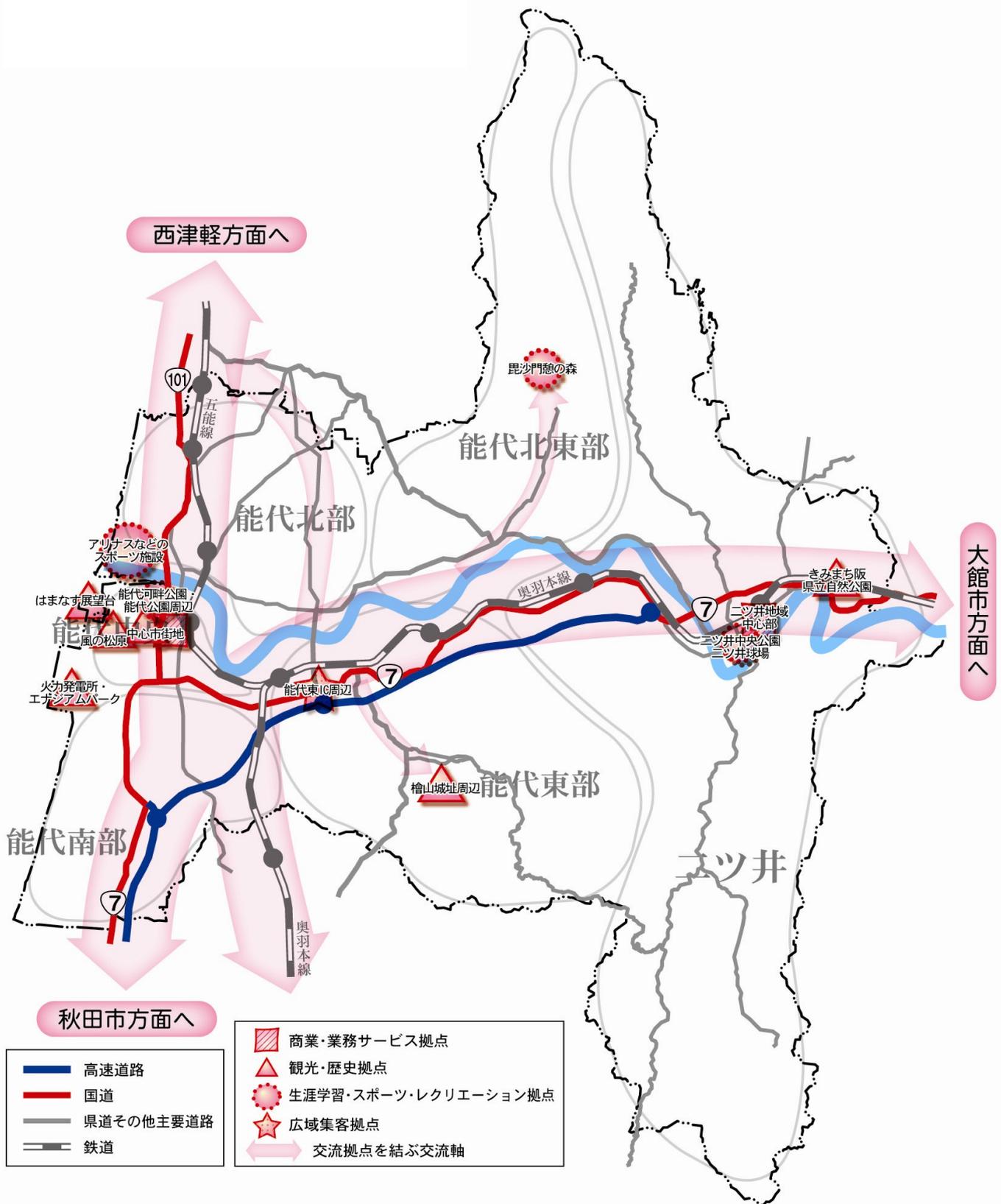
能代東IC周辺は、交通アクセスの優位性などから開発の可能性が高く、市全体の発展に寄与する活用が望まれています。このため、広域的な集客を目指した土地利用を図りながら、中心市街地への人の流れを生み出し、交流やにぎわいのあるまちづくりを目指して、広域集客拠点と位置づけます。

また、能代南IC及び二ツ井白神IC周辺については、今後、利活用の方向性について検討していきます。

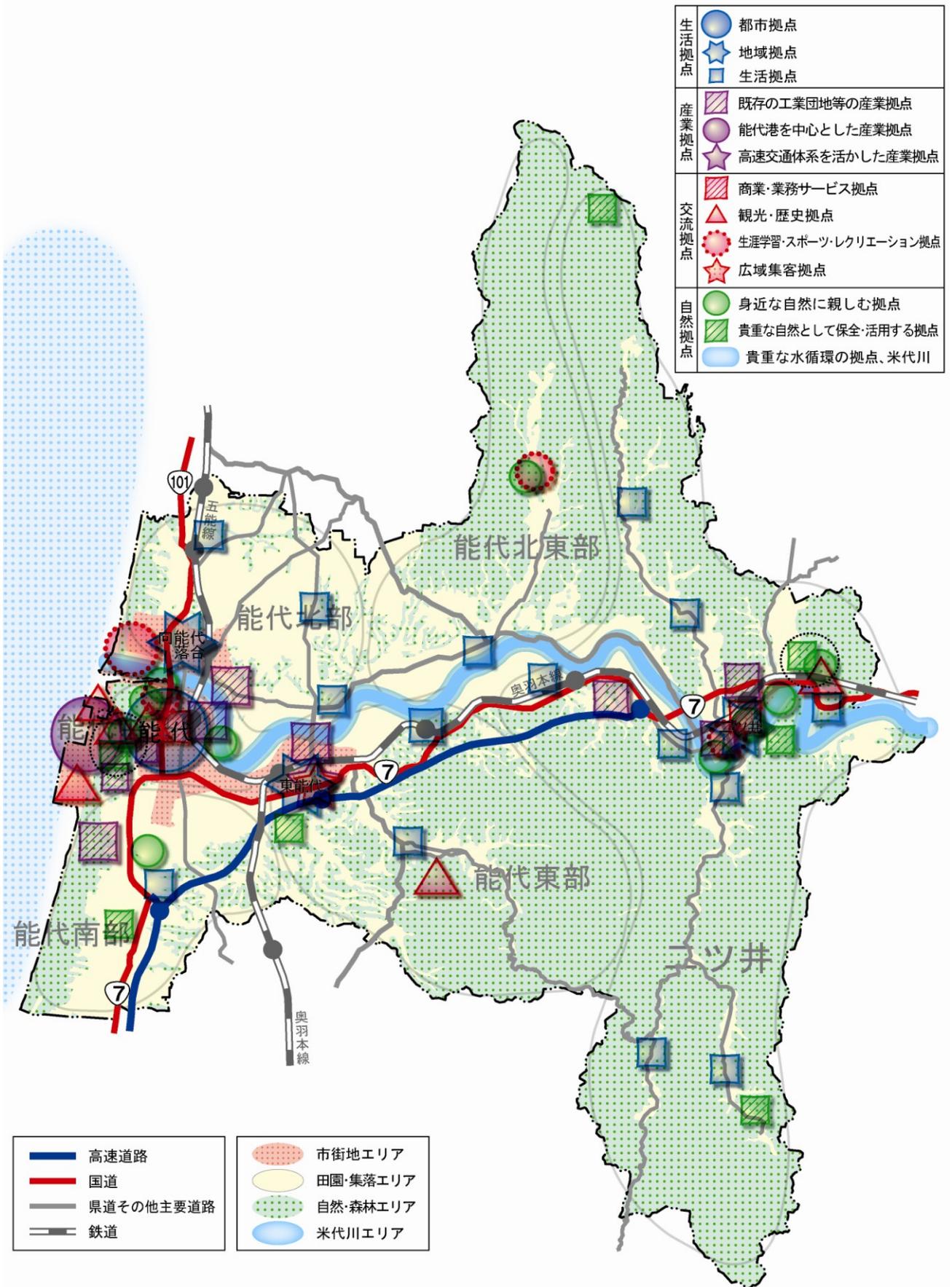
### <軸の形成>

#### ⑤ 交流拠点を結ぶ交流軸

広域からの人の交流を増加させることでにぎわいを生み出すため、広域都市圏内外との交流と連携を支えるJR奥羽本線やJR五能線、日本海沿岸東北自動車道、西津軽能代沿岸自動車道、国道7号や国道101号などを、交流拠点を結ぶ交流軸と位置づけ、交通ネットワークの強化促進を図ります。



■ 拠点と軸の方針図〈交流の拠点配置と交流拠点を結ぶ交流軸〉



■能代市の将来都市構造の方針図<拠点の配置>



## 3-2 都市の整備方針

都市構造の方針を踏まえ、土地利用や交通体系、都市施設、市街地の整備、景観や環境保全等の分野別の整備のあり方を都市の整備方針として示していきます。

都市の整備方針についても、都市構造の方針と同様の構成とし、基本理念で示した4つの柱に沿って、それぞれの理念に関連する分野の整備方針を示していきます。

## ＜基本理念と整備方針の体系＞

基本理念	整備方針		
豊かな自然と共生するまち	1	1 土地利用	① 市街地エリア内については、都市的土地利用の誘導を図ります。
			② 市街地エリア外については、新たな開発を極力抑制し、環境保全に努めます。
			③ 現状の都市計画区域を維持し、農地や森林を保全します。
		2 交通体系	① 環境負荷の少ない交通体系の確立を目指します。
	3 都市施設	① 生活排水処理施設の整備により、公共用水域の水質保全を図ります。	
		② 都市公園のほか、自然公園や緑地の保全・活用を図ります。	
	4 景観・環境	① 本市固有の豊かな自然環境・景観の維持・保全を図ります。	
産業と雇用を創出する活力あるまち	2	1 土地利用	① リサイクル関連企業の進出を促進するため、能代港の利活用に取り組みます。
			② 能代港の利活用と連携し、既存工業団地における新たな産業展開を目指します。
			③ 高速交通体系を活かし、地域全体の発展を目指す土地利用を図ります。
			④ 農地や森林の維持・保全に努め、農林業や木材産業の振興を図ります。
	2 交通体系	① 広域的な産業の連携と発展を目指す広域交通ネットワークの形成に取り組みます。	
	3 都市施設	① 海の玄関口である能代港の機能強化に取り組みます。	

基本理念	整備方針		
快適に安心して 住み続けられる まち	3	1 土地利用	① 市民サービス向上のため、行政機能等の集約と地域の連携を図ります。
		2 交通体系	① 地域の生活利便性を高めるため、交通ネットワークの形成を目指します。
			② 都市計画道路の整備優先順位の明確化や見直し等を進めます。
			③ 安全な通行確保のため、生活道路の整備・改善を進めます。
		3 都市施設	① 安全でおいしい水を供給するため、水道の整備や充実を図ります。
			② 生活排水処理施設等の整備により、快適な生活環境の確保を図ります。
			③ 身近な憩いの空間である公園等の環境美化・維持管理の充実を図ります。
			④ 能代河畔公園の計画を見直し、早期完了を目指します。
			⑤ 安心・安全のため、河川の治水機能等の充実・強化に取り組みます。
			⑥ 市営住宅の適切な供給を図り、居住環境の向上に努めます。
			⑦ 高齢化に向け、バリアフリー化に対応した施設機能の向上に努めます。
		4 市街地	① 市民と行政の協働により、居住環境の改善に努めます。
		5 防災	① 過去の災害を教訓とした、防災機能の向上に努めます。
② 防災拠点や緊急輸送路、避難地等の確保を図ります。			
6 その他	① 地域コミュニティを未来につなげるためのまちづくり活動を支援します。		
人が集まり 交流により にぎわいが 生まれるまち	4	1 土地利用	① 広域的な集客を目指した土地利用を図ります。
			② 生涯学習・スポーツ・レクリエーションを通じた交流空間の充実を図ります。
		2 交通体系	① 交流と連携を図るため、広域交通ネットワークの形成に取り組みます。
		3 市街地	① 多様な消費者ニーズに対応できる利便性の高い商店街となるよう支援します。
			② 中心市街地を複合的な都市機能を備えた市街地となるよう支援します。
		4 その他	① 本市固有の自然的環境・景観を活用した観光振興を図ります。
			② 恵まれた地域資源を活かした観光振興と交流促進を目指します。

## 1 「豊かな自然と共生するまち」を目指す都市の整備方針

「豊かな自然と共生するまち」を実現するため、無秩序な開発の抑制や豊かな自然の維持・保全、環境負荷の軽減などに関する都市の整備方針を示します。

### (1) 土地利用

#### ①市街地エリア内については、都市的土地利用の誘導を図ります。

市街地エリア内については、農地と宅地が混在する地域もあり、農業用水への生活排水混入による水質汚濁や照明施設等による光害などの自然環境の悪化が懸念されます。

このような視点から、市街地エリア周辺の良好な田園環境や美しい景観を保全しながら、有効に土地利用を進めるため、市街地エリア内への都市的土地利用の誘導を図ります。

#### ②市街地エリア外については、新たな開発を極力抑制し、環境保全に努めます。

市街地エリア外の区域については、新たな開発を極力抑制し、自然環境や景観の保全に努めるものとします。

ただし、能代東IC周辺や幹線道路沿いなどでは、高速交通体系の整備により交通の利便性が向上したことによる開発の可能性が高まっています。

このような区域においては、市の発展に寄与する開発かどうかについて十分に検討した上で、周辺環境の保全に配慮した適正な土地利用を進めます。

#### ③現状の都市計画区域を維持し、農地や森林を保全します。

本市には、能代地域と二ツ井地域にそれぞれ都市計画区域がありますが、現在、都市計画区域外における新たな都市施設等の整備や、民間の開発需要の高まりは見られません。

また、都市計画区域外の農地や森林は農業振興地域や森林地域に指定されており、開発が規制されています。

このため、当面は、現状の都市計画区域を拡大せず、農業振興地域や森林地域の指定により、農地や森林の保全に努めていきます。

### (2) 交通体系

#### ①環境負荷の少ない交通体系の確立を目指します。

本市では、環境を守るため、人と環境にやさしいまちをつくることを宣言しており、自動車排気ガスによる大気汚染等の環境負荷の軽減を図っていく必要があります。

このため、バス等の公共交通機関や市街地巡回バスなども考慮しながら、環境負荷の少ない交通体系の確立を目指します。

## (3) 都市施設

## ①生活排水処理施設の整備により、公共用水域の水質保全を図ります。

本市における河川、池沼、農業用水路等の貴重な水資源は、市民の共有財産であるという認識の下に理解と関心を深め、水質悪化を防ぎ、清らかな水辺環境を守っていくことが重要です。

このため、生活排水処理整備構想に基づき、能代地域においては、公共下水道事業、農業集落排水事業、合併処理浄化槽設置整備事業の推進と普及率の向上、二ツ井地域においては、合併処理浄化槽設置整備事業の促進と放流先排水路の整備など、公共用水域の水質保全に結びつく生活排水処理施設の整備を進めます。

## ②都市公園のほか、自然公園や緑地の保全・活用を図ります。

森林や公園などの緑の空間は、市民の生活に潤いと安らぎを与えます。

また、木々の葉は夏場の強い日差しを和らげ、これら植物の蒸発散作用が周囲の熱を奪うことにより周囲の気温を低く保つ効果もあるなど、地球温暖化対策の観点からも、守り育てていかなければなりません。

このため、本市にある都市公園のほか、きみまち阪県立自然公園や、風の松原、毘沙門憩の森、桜つつみ公園、米代川の河川緑地などの豊富な緑の空間は、市民の生活環境にもたらす影響が大きいものであることを認識し、適切な緑地空間の保全と活用を図ります。

きみまち阪県立自然公園



## (4) 景観・環境保全

## ①本市固有の豊かな自然環境・景観の維持・保全を図ります。

本市においては、森林や農地が市域の約8割を占めており、白神山地をはじめ、日本海、米代川、小友沼などの水辺空間や、市街地を囲む田園など、豊かな自然環境・景観に恵まれています。しかし、現在、風の松原などの松林における松くい虫被害や、山林や海岸などにおける不法投棄の発生などが深刻な問題となっています。

このため、松くい虫に対する薬剤散布・伐採駆除等や、不法投棄防止のための対策などを推進し、本市固有の豊かな自然環境・景観の維持・保全を図ります。

## 2 「産業と雇用を創出する活力あるまち」を目指す都市の整備方針

「産業と雇用を創出する活力あるまち」を実現するため、産業振興に結び付く土地利用やネットワーク、産業創出の基盤整備等に関する都市の整備方針を示します。

### (1) 土地利用

#### ①リサイクル関連企業の進出を促進するため、能代港の利活用に取り組みます。

産業振興により雇用の場を確保し、若者等の定住を促進していくためには、今後大きく成長していくと期待される資源リサイクル関連企業にとって魅力ある進出環境を整えることが重要です。

このため、秋田県北部エコタウン計画と連携したリサイクルポート能代港の利活用へ取り組み、企業進出のための用地確保などについて、国・県や関係機関に働きかけます。

#### ②能代港の利活用と連携し、既存工業団地における新たな産業展開を目指します。

リサイクルポート能代港の利活用と連携した工業振興や地域産業の発展にむけた取り組みが必要です。

このため、高速交通体系等の優位性を企業に向けてアピールし、能代木材工業団地や能代工業団地に残された未利用地の活用を進め、エコタウン計画と連携した資源リサイクル産業の創出をはじめとする様々な分野での新たな産業展開を目指します。

#### リサイクルポート能代港



#### ③高速交通体系を活かし、地域全体の発展を目指す土地利用を図ります。

能代東IC周辺では、高速道路などの立地特性を活かした効果が期待できることから、国道7号沿いに大規模商業施設の立地が見込まれております。

また、産業創出及び振興を目指す視点からも、本地域を産業拠点とし、交通機能を最大限に活用した土地利用としていくことが本市にとって有効と考えられます。

このため、商業・観光・物流など、地域全体の発展を目指す土地利用を図ります。

#### ④農地や森林の維持・保全に努め、農林業や木材産業の振興を図ります。

農地や森林は、本市の基幹産業である農林業・木材産業の生産基盤であるとともに、自然災害を防止する機能や雨水を貯留する機能、水質や空気を浄化する機能など、さまざまな機能も有しています。

このため、これらの優良な農地や森林の維持・保全に努めるとともに、地産地消による食の安全確保、適地適産と地域ブランドの確立、担い手の確保・人材育成などによる農林業や木材産業の振興を図ります。

##### 本市の基幹産業である農林業



### (2) 交通体系

#### ①広域的な産業の連携と発展を目指す広域交通ネットワークの形成に取り組みます。

市内の産業拠点と広域都市圏内外との広域的な連携により、圏域全体の産業振興と発展を目指していくことが重要です。

このため、日本海沿岸東北自動車道や西津軽能代沿岸道路等、隣県及び県内各都市と本市の産業拠点を結ぶ広域交通ネットワークの形成を図ります。

特に、リサイクルポート能代港とリサイクル関連施設が集中する内陸部を結び、大館能代空港の活用に関わる二ツ井白神IC～大館能代空港IC（仮）間については、事業主体である国へ早期事業着手を働きかけます。

### (3) 都市施設

#### ①海の玄関口である能代港の機能強化に取り組みます。

能代港は、石炭や木材などの輸出入の窓口であるだけでなく、近年は、観光のための豪華客船も寄港しています。

また、リサイクルポートの指定により、リサイクル関連企業の立地も期待されています。

こうした現状から、能代港が本市のみならず、秋田県北部で重要な役割を果たす港となっていくためには、企業にとって魅力ある港湾機能の強化が重要です。

このため、海の玄関口として多面的に活用できるよう、港湾改修や、物流機能の整備のほか、港湾機能の充実や強化などについて、国・県や関係機関に働きかけます。

### 3 「快適に安心して住み続けられるまち」を目指す都市の整備方針

「快適に安心して住み続けられるまち」を実現するため、良好で利便性の高い交通体系や住環境整備、防災性の向上などに関する都市の整備方針を示します。

#### (1) 土地利用

##### ① 市民サービス向上のため、行政機能等の集約と地域の連携を図ります。

能代地域と二ツ井地域については、行政機能の効率化を図りながら、市民が利用しやすいよう連携を図っていく必要があります。

このため、市全体の核となる役割を持っている能代地域の中心市街地では、利便性の高い複合的な行政・業務拠点の形成を目指し、建物の適切な更新と行政・業務機能の集約化を図ります。

また、二ツ井地域の中心部には、業務サービス施設の集積が図られるとともに、地域の行政サービス拠点としての機能を有していることから、能代地域と連携を強化しながら引き続き拠点として活用していきます。

#### 官公庁が並ぶ市庁舎周辺の行政ゾーン



能代地域



二ツ井地域

## (2) 交通体系

**①地域の生活利便性を高めるため、交通ネットワークの形成を目指します。**

地域での生活を維持していくためには、一つの地域だけでは満たされない機能を補うため、連携する他地域との交通環境を整えるなど利便性を高めていくことが必要です。

また、路線バスの赤字拡大と県の生活バス路線補助金の見直しが進んでいるなか、自動車を運転できない高齢者等が、今後一層増加すると予想されるため、移動手段を確保する必要があります。

このため、市街地エリアや各生活拠点とを結ぶ県道等の主要幹線道路については、重要な地域軸として位置づけ、バス路線確保など地域の实情に即した効率的で利用しやすい生活交通の実現を目指します。

市街地巡回バス はまなす号



能代駅前バス待合所

**②都市計画道路の整備優先順位の明確化や見直し等を進めます。**

都市計画道路は、地域の都市交通を担う重要な都市基盤として都市計画決定され、順次整備してきましたが、一部未整備路線や整備未着手路線など、計画決定後から長期間が経過している路線が多く存在しております。

このため、現在の社会情勢や都市構造の変化を踏まえ、将来における整備効果や必要性を再検討するため、秋田県都市計画道路見直しガイドラインに基づき、既存交通基盤の交通量等の調査分析を進め、整備優先順位の明確化や、長期未着手路線の見直し等を進めます。

### ③安全な通行確保のため、生活道路の整備・改善を進めます。

高齢化が進展する中で、バリアフリー等の安全な交通環境の整備・改善や、除排雪などによる雪に強いまちづくりが必要となっています。

このため、安全に通行できる道路空間を確保するための生活道路の整備・維持管理や、歩行空間・自転車走行空間の確保等を進めます。

## (3) 都市施設

### ①安全でおいしい水を供給するため、水道の整備や充実を図ります。

生活様式や水環境の変化に伴い、将来にわたり安全でおいしい水の供給が望まれています。その一方で、水道施設の老朽化による設備の更新費用や維持管理費などの負担も大きくなっています。

このため、今後の効率的な更新・維持管理のあり方について将来経営も見据えた検討を行い、水道未普及地域の解消や簡易水道の統合など、水道の整備や充実を図ります。

### ②生活排水処理施設等の整備により、快適な生活環境の確保を図ります。

市民が、衛生的で快適な生活をしていくためには良好な居住環境の整備が必要です。

このため、生活排水処理整備構想に基づき、能代地域においては、公共下水道事業、農業集落排水事業、合併浄化槽設置整備事業の推進及び普及率の向上を図り、二ツ井地域においては、合併処理浄化槽設置整備事業の促進と放流先排水路の整備を進めます。

また、一般廃棄物処理計画に基づき、し尿及びごみの処理についても適正かつ計画的に進めます。

### ③身近な憩いの空間である公園等の環境美化・維持管理の充実を図ります。

公園は、市民に身近な休息や憩いの空間であるとともに、地域の交流の場として活用されており、これからも維持していく必要があります。一方、市では、限られた人材・財源を効果的に用いながら、市民との協働による質の高い行政サービスを提供する自治体を目指しています。

このため、市と公園愛護会や関係する自治会との連携体制の構築による公園の環境美化や維持管理の充実を図ります。

市街地内の身近な憩いの場と  
なっているけやき公園



#### ④ 能代河畔公園の計画を見直し、早期完了を目指します。

能代河畔公園については、中心市街地の緑地確保や防災機能などの都市機能確保のため整備を進めてきましたが、本市をとりまく社会情勢等の変化から、全体計画面積を縮小する都市計画決定の変更を行い、早期完了を目指します。

また、この見直しによって不足する機能については、能代公園や風の松原、能代港の港湾緑地などの類似施設との連携強化などにより補完します。

#### H24年度の完成を目指す 能代河畔公園



能代港の港湾緑地と  
はまなす展望台



#### ⑤ 安心・安全のため、河川の治水機能等の充実・強化に取り組みます。

河川には、増水等による水害対策などの安心・安全な空間としての機能と、やすらぎや憩いの場としての機能をあわせ持つことが求められています。

このため、河川改修事業等の実施とあわせ、地域防災計画・水防計画に基づき、洪水ハザードマップの作成・公表等を進めるとともに、親水護岸や河川緑地の整備など、河川の持つ景観機能や親水空間として、機能の充実・強化に取り組みます。

#### ⑥ 市営住宅の適切な供給を図り、居住環境の向上に努めます。

市営住宅に求められる役割に応じた適切な住宅供給を図る必要があります。

このため、住生活基本計画や公営住宅等長寿命化計画を策定し、市営住宅の居住環境の向上や、耐用年数を超えた市営住宅の計画的な建替や維持保全を進めます。

#### ⑦ 高齢化に向け、バリアフリー化に対応した施設機能の向上に努めます。

住宅・建築物、公園等の様々な人が利用する施設について、高齢化に向けた対応が求められています。

このため、だれでも自由に使いやすくという考え方を踏まえ、バリアフリー化への対応などによる施設機能の向上に努めます。

## (4) 市街地整備

**①市民と行政の協働により、居住環境の改善に努めます。**

これまで面的な基盤整備が行われないまま市街化が進行した住宅地では、緊急車両の通行が困難な狭隘道路が多く、防災面での改善が求められています。

このため、今後の市街地整備にあたっては、財政状況を勘案しながら市民との対話により合意形成を図り改善手法を検討していきます。

## (5) 防災まちづくり

**① 過去の災害を教訓とした、防災機能の向上に努めます。**

本市が経験した、昭和24年と31年の大火や、昭和47年と平成19年の水害、昭和58年の地震等の教訓を忘れることなく、災害に強いまちづくりを進めていくことが重要です。

このため、火災の予防対策や、建築物等の耐震化促進、河川・下水道の連携による総合的な治水施設の整備と効率的な運用や、土砂災害等の防止など、防災機能向上に努めます。

**米代川河口付近と市街地**

## ②防災拠点や緊急輸送路、避難地等の確保を図ります。

災害時には、避難場所や避難ルートの確保と迅速な誘導等、関係機関と地域の綿密な連携が重要です。

このため、災害時の防災拠点や避難所となる公共施設の耐震化の促進、避難場所となる公園・緑地やオープンスペースの確保、迅速で正確な避難情報の伝達、緊急輸送道路ネットワークの安全性・信頼性の向上などに努めます。

### (6) その他まちづくり

#### ① 地域コミュニティを未来につなげるためのまちづくり活動を支援します。

地域の歴史的資源や文化財、民俗芸能や民俗行事などの特色ある文化資源の保全・伝承により地域コミュニティを未来へつなげていくことが大切です。

このため、檜山地区における歴史の里づくりへの取組等、地域住民が主体となったまちづくり活動を支援していきます。

#### 地域の歴史ある伝統文化



能代地域「道地・常州下御供佐々楽」



二ツ井地域「羽立大神楽」

#### 4 「人が集まり、交流によりにぎわいが生まれるまち」を目指す都市の整備方針

「人が集まり、交流によりにぎわいが生まれるまち」を実現するため、商業地振興や交流空間の形成、中心市街地の再生、観光振興、まちづくり活動などに関する都市の整備方針を示します。

##### (1) 土地利用

###### ① 広域的な集客を目指した土地利用を図ります。

本市では、大規模商業施設の立地が見込まれていること等を踏まえ、他地域に買い物に出かけていた人を地元につなぎとめたり、他地域から買い物に訪れる人を地元商店街での交流人口の増加につなげるなど、商店街や市民、行政が一体となった取組が必要です。

このため、能代東IC周辺については、広域的な集客を目指した土地利用を図りながら、中心市街地への人の流れを生み出し、交流やにぎわいのあるまちづくりを目指します。

###### ② 生涯学習・スポーツ・レクリエーションを通じた交流空間の充実を図ります。

生涯学習・スポーツ・レクリエーション施設においては、文化活動や特色あるスポーツのまちづくりを推進しながら市民交流の場として活用することにより、にぎわいを生み出すことが重要です。

このため、拠点となる施設を中心とした生涯学習の場やスポーツを楽しめる場、海・川・山などの豊かな自然を活かしたレクリエーション空間の充実を図ります。



##### (2) 交通体系

###### ① 交流と連携を図るため、広域交通ネットワークの形成に取り組みます。

市内の交流拠点と広域都市圏内外との連携により、広域的な観光・交流による集客やにぎわいを生み出していくことが重要です。

このため、JR奥羽本線やJR五能線、日本海沿岸東北自動車道、国道7号や国道101号などを活用し、隣県及び県内各都市との交流・連携を支える広域交通ネットワークの形成を図ります。

また、能代山本地域やJR五能線沿線などの広域的連携を促進するため、国道101号の機能強化や西津軽能代沿岸道路の早期事業着手を関係機関に働きかけます。

## (3) 市街地整備

**①多様な消費者ニーズに対応できる利便性の高い商店街となるよう支援します。**

中心市街地の空洞化は、全国共通の課題であり、車社会の進展や、消費人口の減少、インターネットによる販売システムなどの社会構造の変化が影響しているとされ、多様な消費者ニーズへの対応が求められています。

このため、能代地域の中心市街地や二ツ井地域の中心商店街では、利便性や集客力の向上により、地域住民等のニーズに対応した、魅力と活力のある商店街となるよう支援します。

二ツ井地域の中心商店街

**②中心市街地を複合的な都市機能を備えた市街地となるよう支援します。**

中心市街地については、既に整備されている都市基盤があり、高度な利活用が可能です。

このため、商業等の活性化やまちなか居住の促進などを図るとともに、居住、商業、交流、行政サービス機能など複合的な都市機能を備えた魅力的な市街地となるよう支援します。

柳町商店街



能代地域の中心市街地



畠町商店街

## (4) その他まちづくり

**①本市固有の自然的環境・景観を活用した観光振興を図ります。**

日本海や米代川の水辺、白神山地、風の松原、小友沼、きみまち阪などの優れた自然的環境・景観を活用したまちづくりを進め、にぎわいの創出を図ることが必要です。このため、これらの地域資源に関する情報発信などによる観光振興を図ります。

風の松原 朝の風景

**② 恵まれた地域資源を活かした観光振興と交流促進を目指します。**

本市は、古くからの歴史にまつわる史跡や文化財、さまざまなイベントや伝統行事などの市民が誇る地域資源を有し、多くの観光客が訪れています。

このため、イベント情報の発信や、集客のための環境整備等に取り組み、交流やにぎわいを生み出していくことを目指します。

地域の伝統行事



役七夕

## 第4章 地域別構想

## 4-1 地域別構想の概要

### 1 地域別構想について

地域別構想の策定にあたって、地域の課題を把握し、住民の意見を反映するため、ワークショップや市民アンケートを実施しました。

特に、ワークショップにおいては、単に話し合いをするだけでなく、実際にまち歩きを行い、地域の実情を把握したうえで、地域の自由な発想で「夢地図」を描いて頂きました。

地域別構想は、これら「夢地図」を参考にしながら、基本構想や全体構想で定めた目標、方針等を照らし合わせ、その地域の特性と最も関連するものに基づき決めました。

この地域別構想に掲げたまちづくりの方針は、今後の各地域のまちづくりにおいて、地域住民と行政が一緒になって、重点的に取り組んでいきます。

## 4-2 地域区分

地域別構想では、地域の特性、土地利用、コミュニティなどを考慮し、中学校区を基本として、能代中央（能代第一・能代第二中学校区）、能代北部（東雲中学校区）、能代北東部（常盤中学校区）、能代東部（能代東中学校区）、能代南部（能代南中学校区）、二ツ井（二ツ井中学校区）の6地域に区分して計画します。



### 4-3 地域の将来像と主要なまちづくりの方針

#### 1 能代中央地域

##### ○地域の将来像

能代市の核となり、まちなかのにぎわいと産業創出・振興を図る地域

##### ○主要なまちづくりの方針

- 中心市街地は、現在、行政及び業務機能をはじめ、商業、医療、教育、文化など様々な機能を有しており、今後もこれらの機能の活用を図ります。  
また、整備された都市基盤を活かし、商業等の活性化、街なか居住の促進、観光行事やイベントによるにぎわいの創出など、誰もが安心して住み続けられ、利用しやすく魅力的な市街地となるよう支援します。
- 重要港湾能代港（リサイクルポート）は、海の玄関口として、観光、産業など多面的に活用できるよう、港湾改修や物流機能の整備のほか、関連企業進出のための用地確保などについて、国、県や関係機関に働きかけるなど、港湾機能の充実に努めます。
- 風の松原では、その豊かな自然環境、景観の維持保全を図り、市民の憩いの場としての活用のほか、観光地の魅力づくりにつなげていく取組の促進や、効果的な情報発信による観光振興を図ります。  
また、能代公園や中央近隣公園（けやき公園）、能代河畔公園については、市民に親しまれる公園として活用を図ります。

#### 2 能代北部地域

##### ○地域の将来像

農業と生活が調和し、スポーツにより交流を図る地域

##### ○主要なまちづくりの方針

- アリナスや山田久志サブマリスタジアム周辺では、スポーツ、レクリエーションを通じた交流の促進によるスポーツのまちづくりを進めます。
- 市街地エリア周辺に広がる農地は、その維持保全に努め、地産地消による食の安全確保、適地適産と地域ブランドの確立、担い手の確保、人材育成などによる農業振興を図ります。
- 商業、医療、教育等の機能を有する落合地区土地区画整理事業区域などの市街地エリア内では、都市的土地利用の誘導を図り、生活環境整備による地域の利便性向上に努めます。

### 3 能代北東部地域

#### ○地域の将来像

豊かな自然と農業、田舎体験を活かした交流を図る地域

#### ○主要なまちづくりの方針

- 地域に広がる農地や森林は、その維持保全に努め、地産地消による食の安全確保、適地適産と地域ブランドの確立、担い手の確保、人材育成などによる農林業の振興を図ります。
- 焼山や毘沙門憩の森、大柄の滝、常盤川をはじめとする河川などでは、自然環境、景観と調和したレクリエーション空間の充実や、地域資源を活かした田舎体験交流を図ります。
- 日常生活を維持していくため、市街地エリアとを結ぶ交通手段の確保や生活利便性の向上に努めます。

### 4 能代東部地域

#### ○地域の将来像

新たに産業と雇用が生まれ、歴史と自然が調和する地域

#### ○主要なまちづくりの方針

- 能代工業団地では、既存企業の振興のほか、未利用地の活用を進め、エコタウン計画と連携した資源リサイクル産業の創出をはじめとする様々な分野での新たな産業展開を目指します。  
また、能代東IC周辺では、広域的な集客による中心市街地への交流人口の増加へとつなげるため、交通機能を最大限に活用し、商業、観光、物流など、地域全体の発展を目指す土地利用を図ります。
- 市街地エリア周辺に広がる農地や森林は、その維持保全に努め、地産地消による食の安全確保、適地適産と地域ブランドの確立、担い手の確保、人材育成などによる農林業の振興を図ります。
- 檜山地区や羽州街道、小友沼などでは、その歴史的な景観や豊かな自然環境の維持保全に努め、歴史の里づくり等の歴史、文化資源を活かしたまちづくり活動や、地域住民のコミュニティー活動などを支援します。

## 5 能代南部地域

### ○地域の将来像

木材産業をはじめとする様々な産業が調和する地域

### ○主要なまちづくりの方針

- 能代木材工業団地（内陸部）では、既存企業の振興のほか、新たな企業立地の可能性も見極めながら、木材高度加工研究所、木の学校などを中心とし、産学官が連携した木のまちづくりを推進します。
- 野菜団地等の農地は、その維持保全に努め、地産地消による食の安全確保、適地適産と地域ブランドの確立、担い手の確保、人材育成などによる農業の振興を図ります。
- 能代南IC周辺の利活用については、能代多目的実験場（ロケット実験場）、風力発電施設、鉱さい堆積場跡地も含め様々な可能性を視野に入れながら、方向性を検討していきます。

## 6 ニツ井地域

### ○地域の将来像

豊かな自然に囲まれ、産業の振興と観光により交流を図る地域

### ○主要なまちづくりの方針

- ニツ井地域の中心部は、行政、業務及び商業などの機能を有しており、今後もこれらの機能の活用を図ります。  
また、中心商店街などでは、地域住民等のニーズに対応した、魅力と活力のある商店街となるよう支援します。
- 烏野工業団地や沢口工業団地等では、ニツ井白神ICの交通機能を活用し、様々な分野での新たな産業展開を目指します。  
また、市街地エリアを囲む農地や森林は、その維持保全に努め、地産地消による食の安全確保、適地適産と地域ブランドの確立、担い手の確保、人材育成などによる農林業や木材産業の振興を図ります。
- きみまち阪県立自然公園や七座山、ふたつ白神郷土の森、仁鮎水沢スギ植物群落保護林などは、その豊かな自然環境、景観の維持保全を図り、効果的な情報発信による観光振興を図ります。  
また、きみまちの里フェスティバルなど、歴史、文化資源を活かしたまちづくり活動を支援します。

## 第5章 計画の実現化推進に向けて

### 5-1 都市計画マスタープラン実現・推進の基本的考え方

本計画では、都市計画関連のほか、環境関連、産業関連、生活関連、防災関連等の個別課題について、土地利用の視点から総合的に捉えたまちづくりの方向性を示しておりますが、こうしたまちづくりは、市民の合意や協力がなければ進めることができません。

したがって、本計画においては、市民、団体、事業者、行政などの主体的な活動と協働により、その実現・推進を目指していきます。

### 5-2 市民主体のまちづくりの支援

市は、今後のまちづくりを進めていくにあたり、本計画を実現するための施策に、重点的に取り組んでいきますが、地域の将来像を実現していくためには、そこに住む市民自らの活動が重要となります。

そのため、地域住民が主体となるまちづくり活動に対して、積極的に支援していきます。

### 5-3 情報を共有して地域のまちづくりに活用

市民と行政などが協働で、まちづくりを進めていくためには、市民や事業者、団体などがまちづくりに関する情報を得て、共通の認識に立つことが必要となります。

そのため、広報をはじめ、ホームページなどにより市民や事業者などへ積極的にまちづくり情報を提供していきます。

### 5-4 関係機関との連携

本市のまちづくりの推進にあたっては、秋田県北部エコタウン計画等の広域的な計画との連携や他都市との交流・連携のための交通ネットワークの強化促進など、広域的な視点での取組も必要となります。そのため、国・県の関係機関や他市町村との連携によるまちづくりを進めます。

### 5-5 土地の利用状況の検証

本計画に定める土地利用の基本方針については、今後、概ね5年ごとに行われる都市計画に関する基礎調査等により、状況を把握し、検証していきます。

## 5-6 土地利用の方針に関する具体的取り組み

### 1 都市計画区域の指定方針

本市は、平成18年3月21日に合併し、「能代都市計画区域」「二ツ井都市計画区域」の2つの都市計画区域が存在しており、両区域間は約7km離れています。

2つの都市計画区域の中間に位置するエリアは、高規格道路、国道7号、鉄道が通り、地域のつながりは強くなっています。

一方、このエリアにおいて、もっとも開発需要が高いと思われる国道7号沿道については、農業振興地域農用地区域及び森林地域指定により開発が規制されており、集落単位で点在した農地転用が見られますが、開発需要の高まりは見られません。

また、沿道の農地以外のエリアは、急峻な山地となっており、地形的に開発の可能性は低いと考えられます。

以上から、現行の都市計画区域は、環境の保全に有効的に機能していることから、都市計画区域の拡大は当面行わず、現状を維持していきます。

なお、将来的に開発需要の高まり等社会情勢の変化が見られた場合においては、保全を視野にいれながら、都市計画区域等の指定を検討していきます。

### 2 地域地区（用途地域）の指定方針

用途地域は、都市における住居、商業、工業などの適正な配置による機能的な都市活動の確保を目的として、良好な市街地環境の形成や秩序あるまちづくりに大きな役割を果たしています。

本市では、本計画に掲げた方針に基づき、用途地域（市街地エリア）内に都市的土地利用を誘導することとし、用途地域の拡大は当面行わないものとします。

また、用途地域（市街地エリア）内においては、中心市街地活性化との連携、能代港の機能強化、高速交通体系を活かした産業と雇用の創出・交流の促進などをキーワードとしながら、本マスタープランで位置づけた、拠点と軸の機能を最大限に高めるため、全体構想で掲げた都市の整備方針に基づく適正な用途地域の指定を検討していきます。

なお、用途地域（市街地エリア）外においては、農業振興地域等の指定により、原則として新たな開発を抑制していきます。

### 3 多様なまちづくり手法の活用

都市基盤が未整備のまま市街地が形成されてきた地区では、居住環境の改善や防災機能の向上など様々な課題を抱えています。

本市では、多くの土地区画整理事業を実施してきましたが、現在、都市計画決定されている柳町新道地区が一部未整備となっております。

こうした地域における今後の市街地整備にあたっては、土地区画整理事業以外の手法についても検討する必要があり、住民の意向も十分に把握したうえで、市の財政状況も勘案して、効果的な手法により事業化できるよう検討していきます。



## 第6章 地域の夢地図

今後のまちづくりでは、少子高齢化や厳しい財政状況のなか、様々な主体が連携し、知恵を出し合って進めていくこととともに、各地域が持っている自然、産業、生活、交流など、互いに持つ特色を活かしながら、ともに持続、発展を目指していくことが重要です。

こうしたことから、地域別のワークショップを開催し、地域の方々が、「地域の宝や問題点・課題」を見つめ、「こうしていきたい」、「活かしていきたい」という地域の意見や発想を「夢地図」にまとめました。

この各地域の「夢地図」には、地域の方々が自ら取り組むことや、様々な主体との連携が必要な意見、まだ発想段階に過ぎない意見などがありました。

こうした意見や発想について、今後とも地域と行政が様々な機会に話し合いを継続し、持続可能で、にぎわいのあるまちづくりにつなげていけるよう努めていきます。

6-1 能代中央地域

(1) 地域住民のまちづくりに関する意見（ワークショップから）

■地域の良いところ・悪いところ

分類	良いところ	分類	悪いところ
福祉	・中和地区婦人会の人達が仲良し	福祉	・少子高齢化
自然 住環境	・桜並木、墓地公園の桜、春は花、秋は紅葉、風の松原・散歩コース、整備、けやき公園、休憩・交流の場、堤防から見る山々 ・河畔公園がいこいの場である ・官庁街の街路樹 ・柳町ジャスコ通りの景観(電線なし)	自然 住環境	・児童公園の不整備（犬のフン、バスケ、トイレ・水道のないところもある） ・空地がある ・風の松原に松くい虫や不法投棄がある ・吸いがらごみのポイ捨て（モラルの低下） ・冬場は雪を捨てる場所がない ・町の中心から学校、商店（大規模）がなくなってしまった
道路 上下 水道	・融雪歩道 国道 101 号 中和大通り	道路 上下 水道	・下水道未整備（鳳凰岱） ・道が細い地区がある ・中和団地内の道路がせまく、排雪に困る ・タッペの坂はお年寄りにやさしくない、冬場足もとが不安定 ・水道・ガス工事のあとの道路が傷だらけ、凸凹がある
研究 施設	・木工研や能代エナジウムパークがある	商業	・畠町のアーケードがなくなり不便 ・商店街のシャッター通り ・畠町広い歩道がもったいない（駐車場にできないか） ・能代を代表する食べ物がない
商業	・特産品（春慶塗、片栗うどん、ねぎ・みょうが、八目うなぎ他） ・おいしいラーメン店	観光 びや	・「バスケの街のしろ」が具体化していない ・子供とバスケができる場所が無い（特に冬場！） ・七夕の観光化、祭典が一般化していない
観光 びや	・バスケットボールが有名 ・風の松原が近くてよい（鳳凰岱） ・七夕、おなごりがある ・能代祭典・運行コースで見物可 ・能代公園の桜、つつじまつり ・歴史的建造物（金勇、市庁舎）	港・海	・能代港が活性化していない ・魚の居ないところだけが釣り場として使われている
港・海	・釣り場がある ・花火大会の集客 ・レジャー船を低価格で停泊可		

■地域の宝と問題点・課題（上記の良いところ、悪いところからWSで抽出）

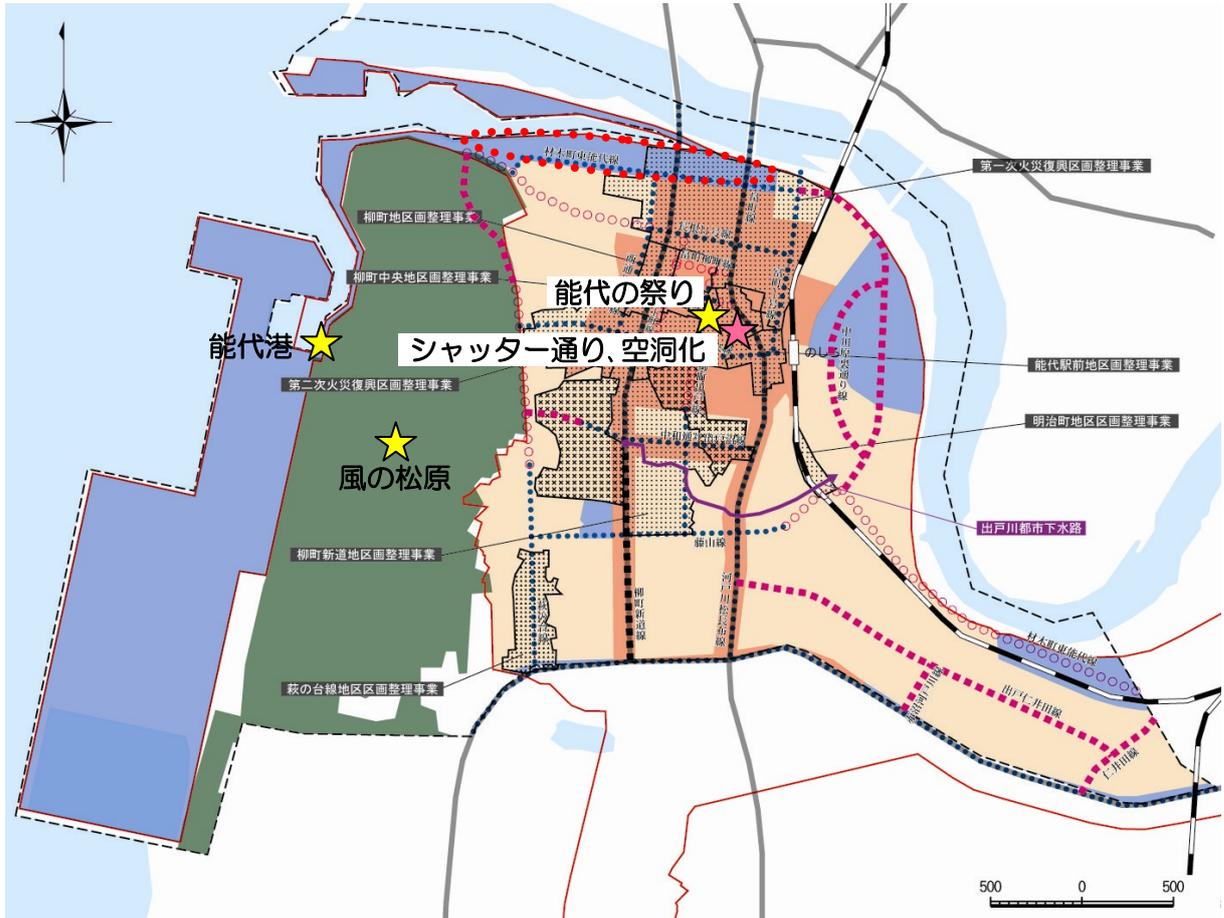
地域の宝	地域の問題点・課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・能代の祭り</li> <li>・風の松原</li> <li>・能代港</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シャッター通りの問題</li> <li>・レジャー施設がない</li> <li>・子供のバスケの場が不足</li> <li>・空洞化の問題</li> <li>・イベント時の駐車場不足</li> <li>・高齢者対策が不足</li> </ul>

■宝の活用方法や問題点の解決方法など（まちあるきポイントに関するWSでの意見）

宝や問題点	意見
①まちなか	<p>富士宮市や横手市の「焼そば」や「八戸ラーメン」などB級あるいはC級グルメづくりに取り組み、市外の人を呼べる施策を。</p> <p>駅のロータリーのまわりに人の交流できるスペース（コーヒーを飲みながら特産品や観光名所がわかるような）があるとどうでしょうか</p> <p>鉄道を毎日ないしは頻繁に利用する人は限られているので、駅付近に集客する、行かなければならない、行きたくなる必要性を作る。</p>

	イベント	コンクールを開催するなど（コンクールもイベントになりうる）まちなかの活性化にもつながるのでは？
		イベント等で人を集めたりして活気をつけたい。
	駐車場	駅前に駐車場を。（駅前の来店者のために）
		歩道を半分駐車帯にして欲しい。
	修景	現在がんばっている店を中心にシャッターアートや花の飾りなどすることにより、良い雰囲気を作れるのではないか。
		これから何か店舗前を変えるとき、木を使うということに決めたら良いと思う。丸太とか端材とか何でも。街並みが揃う。
		西陽の当たる側の店舗等は日よけをやっているが、全部統一した能代らしい色等を使って欲しい。
	その他	能代駅は街の中心であるべき。
		個人の商店を大事にしたい。（スーパーやコンビニではなく、あれはあの店というところ）
		千葉県の松戸駅構内には市役所の支所の様なものがある。（能代のジャスコにあるようなもの）
駅前の開発とともに駅東側の開発も合わせて出来ないものか。		
畠町の電線類を地中化に！！		
ゴミステーションの設置場所の変更。		
町の中心から学校、商店（大規模）が無くなってしまったのが要因。		
②風の松原	イベント	「風の松原祭」を開催団体と市が後援をして開催する。（大々的に）
		広場でのイベント開催など、啓発が必要だと思う。
	マナー	風の松原利用者のモラル向上のための施策を。（タバコ、紙くず等ゴミのポイ捨て、犬のフンなど）
	PR	観光資源として活かすため、もっと宣伝が必要では。
	整備	健康や運動をテーマにした器具等を設置してみたらどうか。
ウッドチップの道がもっと多くても良いのでは。		
ストレス解消の実験コースの設置。		
③能代港 (はまなす展望台)	説明	山々の名、松原の概要、火力発電所、風力発電施設の説明図の配置。
	その他	非常に風景が良い。港は産業に結び付けていく必要があると思う。
		4万トンや1万5千トンなど、魚種の多い箇所の釣り人への開放。（港）
		はまなす画廊の絵の汚れが目立つので、きれいにした方が良いのでは。
		遊覧船の航行が出来ないか。
火力より電気をもらい、照明などのデコレーションや電気を活用したものを検討出来ないか。		
④その他	修景	町中の建物の色を統一出来れば良いなと思います。無理かもしれませんが、建て替えの時や塗り替えの時に屋根の色だけでも。職種やその他で無理かも分かりませんが、その中で工夫が出来れば良いなと思います。
	その他	本市で「ポイ捨て条例」を制定し、全市をあげてキャンペーンを行い、きれいな町・街づくりを全市民で目指す。このまま、放っておくことは無いと思っている。
	その他	市民・町内・行政・社教・学校教育、各事業所など、すべてに呼びかけ協力体制をつくりあげ、長期目標のもと取り組んでいく。

(2) ワークショップで出された「地域の宝と問題点・課題」



★ レジャー施設がない  
 イベント時の駐車場不足  
 子供のバスケットの場が不足  
 高齢者対策が不足

★ 地域の宝  
★ 地域の問題点・課題

(3) 地域住民が描いた夢地図

【能代中央地域のキャッチフレーズ】  
「にぎわいのある街並み、ともに生きる街づくり」  
地域の宝（能代の祭り・風の松原・能代港）

■地域の夢  
ワークショップで出た「地域の良いところ、悪いところ」、「地域の宝、問題点・課題」、「こうしたい！活かしていきたい！」などから、地域の夢を地図にまとめ、夢の実現に向けて「どうしたらよいか」、「自分たちにできることは何か」を考えました。

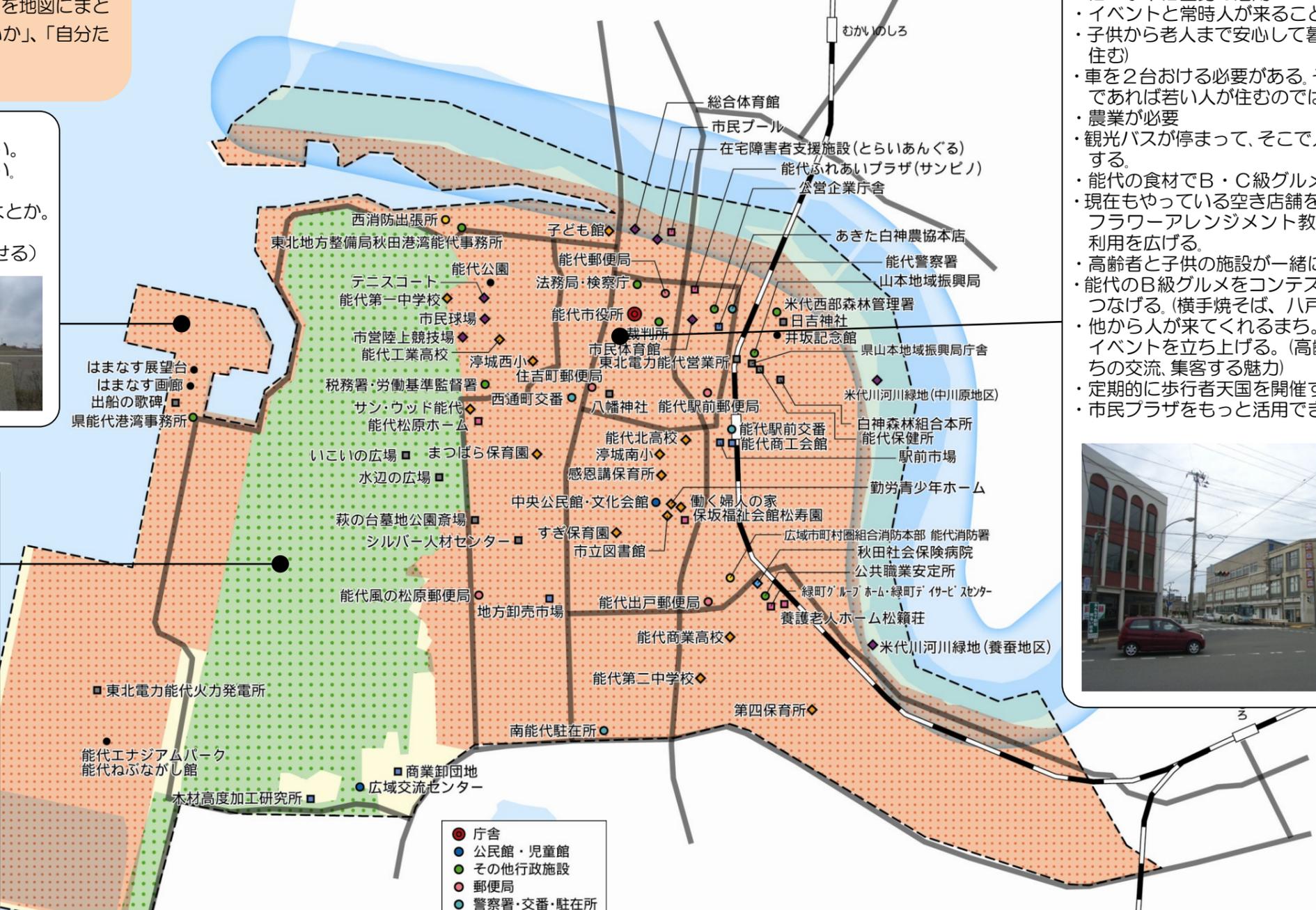
**能代港(はまなす展望台)**

- ・貿易が多く、経済にプラスになればよい。
- ・港の歴史、北前船など。資料があるとよい。
- ・景色は良かったが、案内板があれば。
- ・360°の窓に解説を。白神はこっちだよとか。
- ・港の資料館のような
- ・港の活用を増やす(魅力をもっと持たせる)



**風の松原**

- ・市民の憩いの場
- ・松原を守っていききたい
- ・能代の風の松原を知ってほしい
- ・PRが必要
- ・風の松原のパンフ部数が少ない。もっとつくって宣伝すべき
- ・遊歩道がもっとあればよい
- ・風の松原ガイドは知られていない。宣伝が必要
- ・風の松原だけが映った四季の絵はがきがあればよい。
- ・守っていかないと
- ・自然を一体としてPRしていく。(ワイズユース(賢明な利用)、観光資源として活用しながら守る)

- 庁舎
  - 公民館・児童館
  - その他行政施設
  - 郵便局
  - 警察署・交番・駐在所
  - 消防署・出張所
  - 教育関係施設
  - スポーツ施設
  - 病院・診療所
  - 福祉保健・衛生施設
  - 産業関係施設
  - その他
  - 観光資源
- 市街地エリア
  - 田園・集落エリア
  - 自然・森林エリア
  - 米代川エリア

**まちなか**

- ・子供が増える、子育てしやすい環境
- ・高齢者が安心して暮らせるまちづくり
- ・大道芸、一人一芸みたいなイベント
- ・旧二小や旧金勇の活用
- ・イベントと常時人が来ることが必要
- ・子供から老人まで安心して暮らせる(人が住む)
- ・車を2台おける必要がある。そういう条件であれば若い人が住むのではないか。
- ・農業が必要
- ・観光バスが停まって、そこで人が買い物をする。
- ・能代の食材でB・C級グルメコンテスト
- ・現在もやっている空き店舗を使った直売、フラワーアレンジメント教室等、もっと利用を広げる。
- ・高齢者と子供の施設が一緒にあるとよい
- ・能代のB級グルメをコンテストし、集客につなげる。(横手焼そば、八戸ラーメン)
- ・他から人が来てくれるまち。そのためにイベントを立ち上げる。(高齢者と子供たちの交流、集客する魅力)
- ・定期的に歩行者天国を開催する。
- ・市民プラザをもっと活用できるとよい。



**地域の人たちができること**

- ・子供たちと一緒にボランティア活動等をする。
- ・いろいろな人が活動に参加する。
- ・盛り上げようと思う気持ちが大事。

**バスケットの街**

- ・スポーツ少年団のバスケットがもっと盛んになるような仕組みが必要
- ・BJリーグの盛り上がりをもっと能代のバスケットの盛り上がりにつなげたい(バスケット競技の広がり)

## 6-2 能代北部地域

## (1) 地域住民のまちづくりに関する意見（ワークショップから）

## ■地域の良いところ・悪いところ

分類	良いところ	分類	悪いところ
交通	・道路で草刈を実施している	交通	・須田集落地内（R101）歩道が狭い ・公共交通機関の交通の便が悪い
自然	・世界遺産、白神山地が見える ・自然がよく、日本海が見えます ・白神ねぎ、能代みょうがの産地 ・杉沢台遺跡がある ・空気が澄んできれいなのでホテルもいる	自然	・海岸の松など松くい虫対策が深刻 ・落合浜がきたない ・落合浜海水浴場が休止してしまった
住環境	・地区や自治会のまとまりが良い ・自治会の事業で春・秋の清掃には特に参加者が大変多い ・子ども会活動が盛んです ・桜並木（堤防）がきれい ・近くに米代川があり環境が良い 地域で公園の桜をライトアップしている	住環境	・上下水道等が未整備の地域がある 落合地区の下水の整備 ・大雨による床上浸水住宅がある ・生活排水処理、生活排水の処理が沼や川に垂れ流し
防災 防犯	・子ども達の見守り隊、スクールガードを組織している	防災 防犯	・空家が増加している
その他	・山田久志サブマリスタジアム ・東雲飛行場（昔あった）	その他	・観光する場所があまりない ・スポーツゾーンに総合体育館を建てなかった（アリナス隣地運動公園予定地）

## ■地域の宝と問題点・課題（上記の良いところ、悪いところからWSで抽出）

地域の宝	地域の問題点・課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産白神山地が見える</li> <li>・自然がよく、日本海が見える</li> <li>・山田久志サブマリスタジアム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上下水道等が整備されていない地域がある</li> <li>・落合浜海水浴場を休止した</li> <li>・アリナス隣地の運動公園予定地の課題</li> <li>・公共交通機関の交通の便が悪い</li> </ul>

## ■宝の活用方法や問題点の解決方法など（まちあるきポイントに関するWSでの意見）

宝や問題点	意見	
①飛行場跡地	農業体験	西高だけでなく、地域で農業体験など出来れば。
	イベント	西高などと協力しながらイベントを考えていくと良い。
	見学コース	小学生等の見学コースに（西高の家畜）。 牛舎や農園を子供や家族連れが見学に訪れるようになれば良い。
②白神山地と日本海を一望できる場所	特徴	見晴らし台は少々無理。もうちょっと特徴が欲しい。
	見晴らし台	車を停めてゆっくり見れる場所があれば良い。
	案内板	山の名前を書いた案内板などあれば。
③杉沢台遺跡	復元	遺跡を一つでもよいので復元したら良い。 竪穴式住居の穴を目に見える形にして、訪れた人が空想出来るように出来れば良いのでは？
	案内板	案内板がもっと具体的にあれば。
	その他整備	目立つようにしては？ もっともっと整備して、子どもたちに教えてあげたい。
④歩道が狭い	道路整備	自動車専用道路を早期に作って欲しい。（期間短縮） 市内回りのバスを北部にも欲しい。
	その他	裏側の方にバイパスを作って、数年後には動き易くなるとの事でしたので一安心。
⑤山田久志サブマリスタジアム	イベント	もっともっと積極的にいろんな大会を企画して欲しい。 野球と他のイベントを考えながら進めて行ったら良い。
	PR	川向こうがとってもきれいで、スポット的にイベントも良い。 桜咲くのが楽しみであり、PRしていったら良い。将来が楽しみ。 米代川と桜並木…桜の名所、良いですね。 多くの参加者を集い、協力を大いにしたい。 大切に桜を育てて、将来桜の名所になれば良い。
⑥桜並木	その他	

(2) ワークショップで出された「地域の宝と問題点・課題」



(3) 地域住民が描いた夢地図

【能代北部地域のキャッチフレーズ】  
**「自然とスポーツの交流のあるまち」**  
 地域の宝(世界遺産白神山地と日本海の景観、山田久志サブマリンスタジアム)

■地域の夢

ワークショップで出た「地域の良いところ、悪いところ」、「地域の宝、問題点・課題」、「こうしたい! 活かしていきたい!」などから、地域の夢を地図にまとめ、夢の実現に向けて「どうしたらよいか」、「自分たちにできることは何か」を考えました。

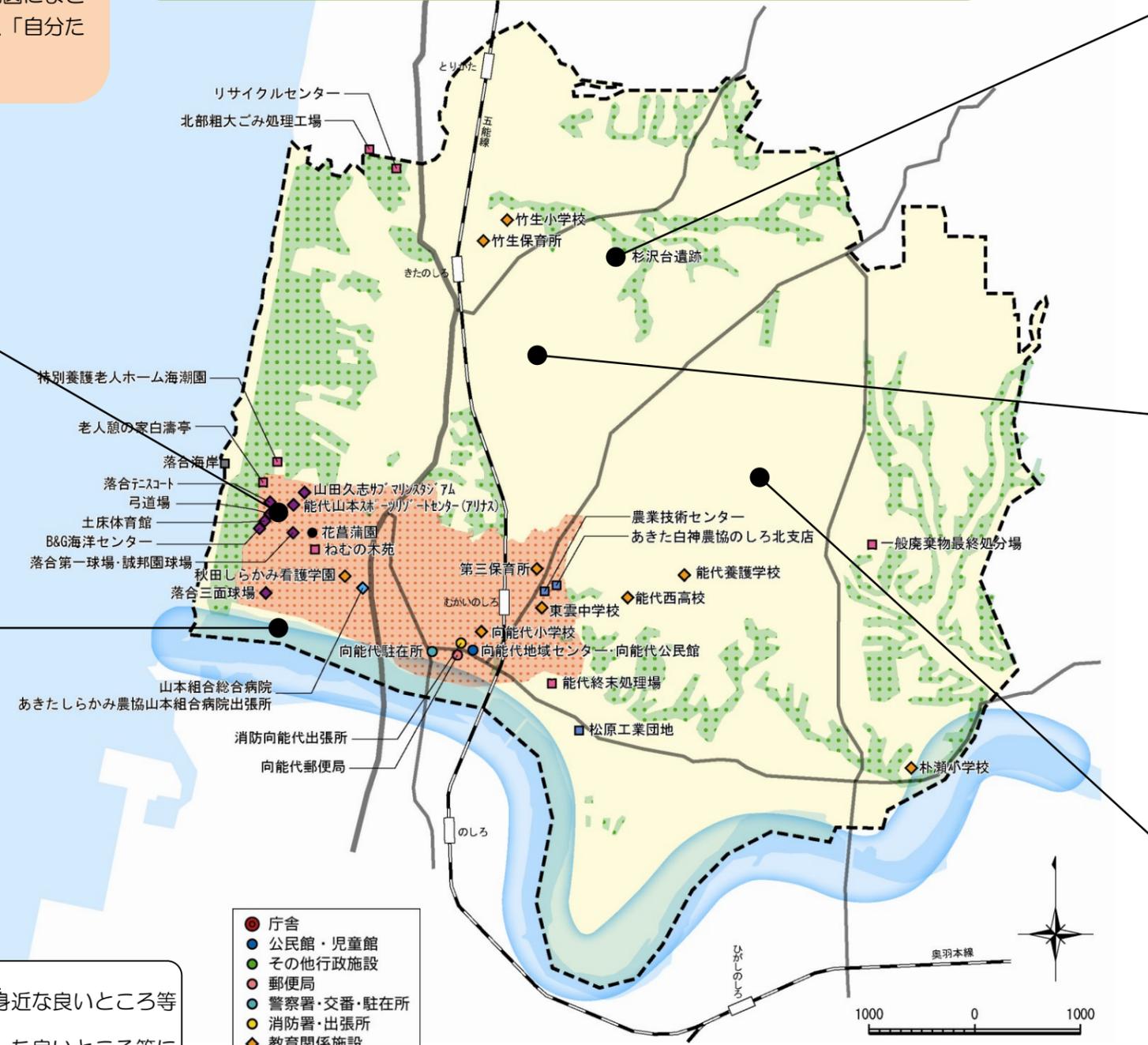
**アリナスを中心としたスポーツゾーン**  
 他市とも交流ができる一極集中したスポーツゾーンに。(日本一のゲートボール場、グラウンドゴルフ場等)



**米代川沿いの桜並木**  
 ・みんなが景色を感じながら、楽しめる桜並木になるといい。(桜並木の散策コースに)  
 ・春先にイベントを開催する。



**地域の人たちができること**  
 ・駅等の観光案内所で、観光地だけではなく身近な良いところ等も紹介していく。  
 ・地域の人たちでつくる案内板で、ちょっとした良いところ等に足をとめてもらう。(特に国道に設置)  
 ・まずは地元の人たちが地域を知る。  
 ・ボランティア活動等で、子供たちと一緒に学んでいく。  
 ・スポーツ施設等、ずっときれいに維持していくため草刈り等に協力していく。



**杉沢台遺跡**  
 ・めずらしい竪穴式住居を再現して子供たちと一緒に勉強できる場所に。  
 ・入口に案内板を設置する。



**白神山地と日本海が見える丘**  
 ベランダ(バルコニー)のようなちょっとした高台をつかって、近くを通る人たちが車を停めて景色を満喫できるような場所に。



**北部地域の農業**  
 「白神ねぎ」や「みょうが」で有名な地域に。



**その他**  
 企業など、子供たちが働く場を見学できるようになるとよい。

**コミュニティバス**  
 北部地域にも生活の足となるコミュニティバスを走らせたい。(集落をつなぐ)

## 6-3 能代北東部地域

## (1) 地域住民のまちづくりに関する意見（ワークショップから）

## ■地域の良いところ・悪いところ

分類	良いところ	分類	悪いところ
高齢化人	・住民が顔見知りだ ・年齢の各層にグループがある	高齢化人	・少子高齢化
住環境	・街道	住環境	・交通の便が悪い ・山地奥の道路が狭い ・上下水道の整備が遅れている ・情報不足（IT） ・携帯電話使用できない ・天内→上野、苅橋→天内方面は、遊歩道がない
自然	・天内（台地）からの景観がよい ・田園風景、特に常盤川 ・自然にあふれている、毘沙門の森 ・岩魚、鮎、ヤマメ ・大柄の滝、20mの大きな滝 ・豊かな林産資源、優良な農地 ・豊かな水資源がある ・能代市で一番高い焼山、オンコ ・白岩神社松尾芭蕉句碑がある ・カヌーもできる、牛石（ベコイシ） ・渦の舞 冷泉あり（個人の土地）	施設	・空家の増加が問題、景観的に心配 ・若者の定着する団地がない ・老人の施設がない ・託児所がない
農業	・一本杭の米（自然乾燥米） ・野菜の生産、共同作業がある ・久喜沢のミョウガ、四日市の葱	農業	・農地の心配（荒地）

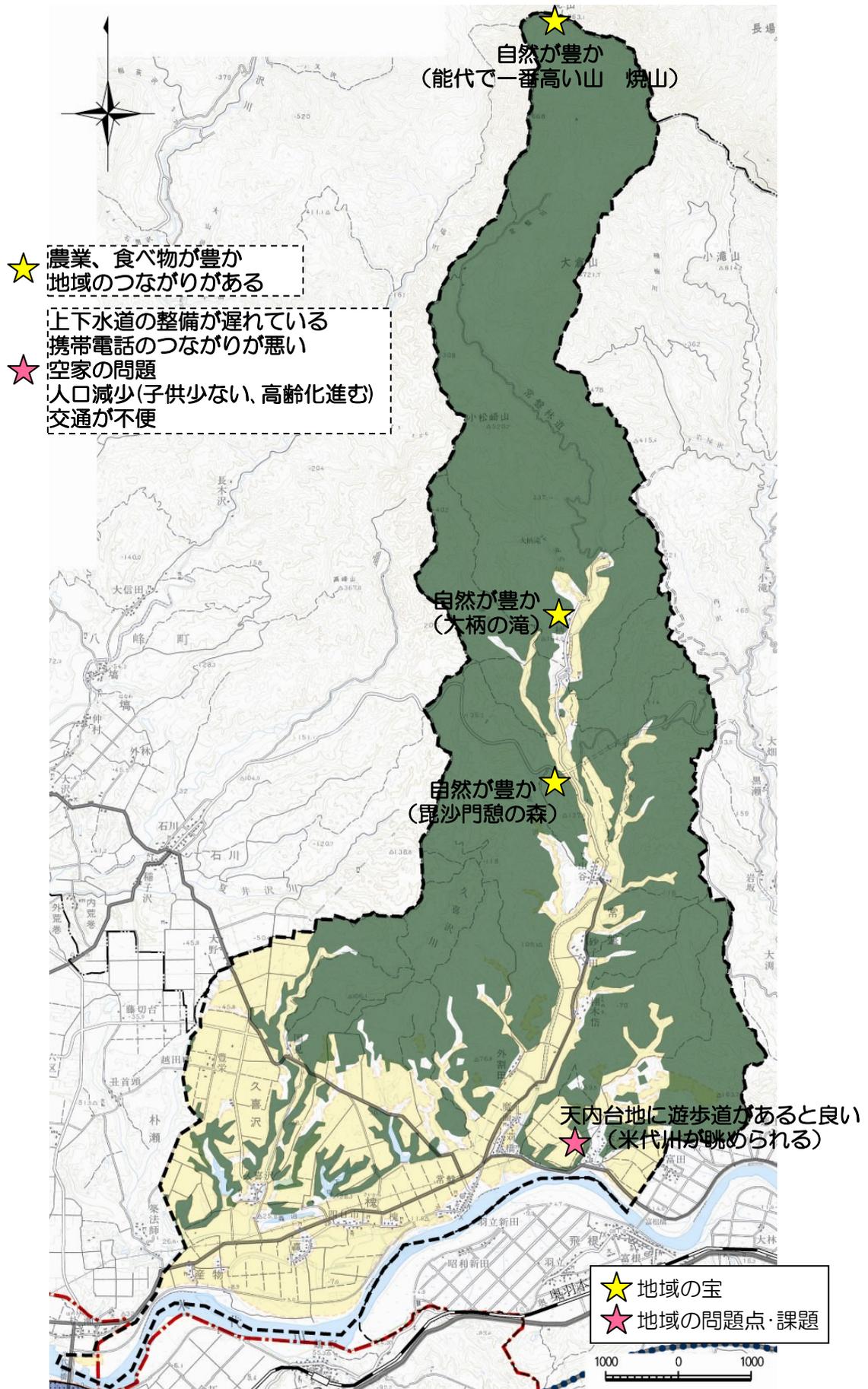
## ■地域の宝と問題点・課題（上記の良いところ、悪いところからWSで抽出）

地域の宝	地域の問題点・課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然が豊か （能代で一番高い焼山、毘沙門、大柄の滝）</li> <li>・白岩神社 ※松尾芭蕉の句碑がある</li> <li>・農業・食べ物が豊か （自然乾燥米、葱、ミョウガ、岩魚、ヤマメ、ア）</li> <li>・地域のつながりがある （共同作業）（年齢層のグループがある）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上下水道の整備が遅れている</li> <li>・携帯電話のつながりが悪い</li> <li>・空家の問題</li> <li>・人口減少（子供少ない、高齢化進む）</li> <li>・交通が不便</li> <li>・天内台地に遊歩道があると良い （米代川が眺められる）</li> </ul>

## ■宝の活用方法や問題点の解決方法など（まちあるきポイントに関するWSでの意見）

宝や問題点	意見	
①天内上野遺跡	遊歩道	遊歩道をつけて欲しい。そうすればもっと自然の良いところが見れると思いました。苅橋⇄天内通り抜け出来るように。
		遊歩道をつけて散歩・散策などに活用したい。
		人が通れるほどの道路が良い。
	東屋	東屋の設置。
②毘沙門憩の森	植樹	桜の植樹の候補地に。
	活用	もっと自然を楽しみ易いように、保育園、学校を通して活用出来るようにしたら良いと思います。 沼を魚釣り大会などに利用。
	宣伝	宣伝して、市内外のキャンプやレクリエーションに利用しては？
③大柄の滝	アクセス	滝まで下りられる階段を整備して欲しい。 マイクロバスで行ける道路にして欲しい。
	環境整備	周辺地域では名の知れた所なので、もっと集客する環境が必要。 バスの終点から遊歩道を作り、上の滝、下の滝を一緒に出来たら高さがあらずばらしい景観になる。
④その他	自然	のどかで山あり川ありで心がリラックスする思いでした。これからみんなに教えていきたいと思っています。 自然環境とスローフードを関連させて人々を呼ぶようにしたら良い。
		常盤地区は自然を前面に出して。 大柄の林道の活用、新緑、紅葉が素晴らしいので、車が安全に通れるように整備してはどうか。
		取組

(2) ワークショップで出された「地域の宝と問題点・課題」



(3) 地域住民が描いた夢地図

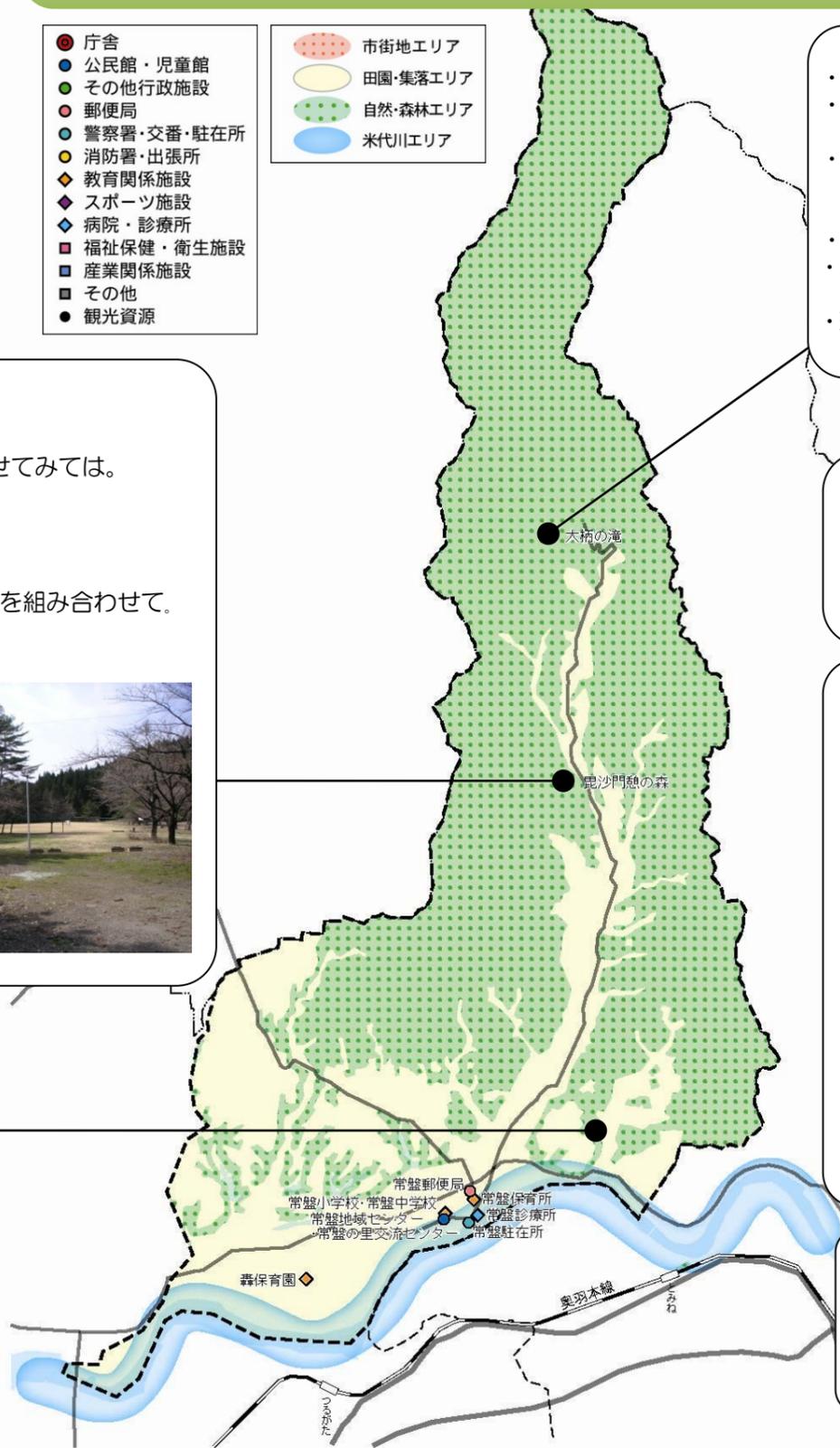
【能代北東部地域のキャッチフレーズ】  
**「自然と田舎体験 in 常盤の里」**  
 地域の宝（豊かな自然・白岩神社・農業・食が豊富・地域のつながり）

■地域の夢

ワークショップで出た「地域の良いところ、悪いところ」、「地域の宝、問題点・課題」、「こうしたい！活かしていきたい！」などから、地域の夢を地図にまとめ、夢の実現に向けて「どうしたらよいか」、「自分たちにできることは何か」を考えました。

- 庁舎
- 公民館・児童館
- その他行政施設
- 郵便局
- 警察署・交番・駐在所
- 消防署・出張所
- ◆ 教育関係施設
- ◆ スポーツ施設
- ◆ 病院・診療所
- 福祉保健・衛生施設
- 産業関係施設
- その他
- 観光資源

- 市街地エリア
- 田園・集落エリア
- 自然・森林エリア
- 米代川エリア



**大柄の滝**

- ・滝の下まで下りられるようにしたい
- ・発想を変えて、下から上に行けるようにしてみたい。
- ・バスで目の前まで行くのではなく、少し歩いて見に行く方が楽しさがあるのでは。
- ・階段とか作って下りれるようにしたい
- ・まっすぐ行くより少し回りながらが良い（金かけずに整備できるように）。
- ・現在のハシゴ段は極めて危険を感じるので、子供・シルバーでも行けるように。



**農業（ミョウガ、ネギ）**

- ・農業をやりたいという都会の人を呼び込めば、空き家を提供したり。
- ・ネギ掘り体験、ミョウガとり体験。ネギの皮をむくのを見るだけでも体験になる（ネギを掘る機械がある）。
- ・ミョウガの体験、農業体験
- ・ネギみょうがだけでなく“常盤でできる農産物”を生み出して欲しい。

**その他**

- ・情報拠点、案内センター
- ・案内係の育成が必要。農業の説明者の育成。
- ・ホテルが見える。3日間ぐらい。7/20頃
- ・自然食レストラン
- ・宿泊先の候補に小学校(旧)がある。今は公民館。
- ・手作りの案内板(学校とかに頼んでみてやってみる)、地図。
- ・長続きさせるようにする仕組み。商売になるようにする。
- ・農業と空家をセットで貸すような仕組み。
- ・人材育成(土地とか家は提供の意志はある)
- ・高齢化していくので遊歩道とか散歩できるところが欲しい(東屋みたいな物)
- ・高齢者が安心して暮らせる(まち)。
- ・他地区から人が集まるようにイベント等(体験:田植え、稲刈り、鮎釣り、かぶとむしとりとキャンプ、ミョウガとり)(宿泊施設あり)。
- ・大柄の滝と組み合わせて紅葉祭り。
- ・毘沙門を中心にした、1年間を通して、もっとたくさんの方が楽しめる施設があればよい。
- ・豊かな自然環境にふさわしい景観づくりのために、地域資源の活用、再生を考え「地域ブランドを高める活動」を取り入れ、農山村の良さをアピールする。

**地域の人たちができること**

- ・大柄の滝までの道路両側の雑草刈り、滝の情報提供。
- ・案内人や指導者の養成、高齢者のボランティア。
- ・水田や畑の提供。
- ・山谷地域の人々だけでなく、常盤地域の人々が毘沙門にいて、環境の美化に協力するとともによりよい場所になると思います。

**毘沙門憩の森**

- ・体験学習できるような施設があれば
- ・紅葉は最高だ
- ・〇～〇を歩いて何分とか調べたい。小学生などにやらせてみては。
- ・食堂がほしい
- ・干しモチ作りとか
- ・眺望の良いところ。少し刈りはらってやるといい。
- ・あまり舗装とかしないであるがままの自然を
- ・この時期はアユ釣り、この時期はミョウガと色々な体験を組み合わせる。
- ・鮎釣りをできるような溪流釣りのいいポイント
- ・セミナーハウスみたいな体験学習施設があれば
- ・キャンプだけでなく何か見たり体を動かしたり複合的に。
- ・平日はあまり人来ないので土日限定で予約制でスタートしてみたら。
- ・毘沙門の間伐材を利用して何かやれないか。コースターとか。
- ・間伐材を利用した何かを毘沙門に作る
- ・体験学習ができるような、30～50人ぐらいの人を集める。
- ・毘沙門を中心とした周遊券の発行をあゆつりもOK！



**天内集落**

- ・眺望が良い
- ・遊歩道



## 6-4 能代東部地域

## (1) 地域住民のまちづくりに関する意見（ワークショップから）

## ■地域の良いところ・悪いところ

分類	良いところ	分類	悪いところ
自然	・白鳥がいる小友沼 ・十和田湖に出かけなくても紅葉が見られる	交通	・スクールバスがない ・信号、踏切がなく、車のスピードが出すぎ。(檜山地区) ・地区内の道路下水対策が不十分 ・道地地区内の道地踏切りの幅が狭い ・道路利用者がごみを捨てる。捨てやすい環境かな？ ・道路が狭く車が通れない(道地地区) ・隣接地域との交流が出来ない(道地地区)
交通	・交通体系網が完備 ・秋田への近道	生活	・街灯が少ない ・道地集会所が欲しいが、予算が地区にない(地区会議等は神社を利用)
生活	・河川公園を造成中、みんなでスポーツできる	産業	・工業団地は空地あり マイナス面もある
産業	・工業団地がある ・空農地の利用に積極的である ・おいしいお米、鶴形そばで頑張っている、檜山納豆、檜山茶、茶よつかん ・山林は大切な財産！	その他	・まちづくりに対する協力者がいつも同じメンバーである ・旧東中学校跡地の利用計画がない ・住民のやる気が感じられない ・機織みこしが大人と子どもに分かれていて人不足となっている
歴史文化	・檜山城、多宝院、追分の松並木、羽州街道、崇徳小学校 ・白神山系絶景ポイント ・道地地区、道地ささらが継承保存されている		

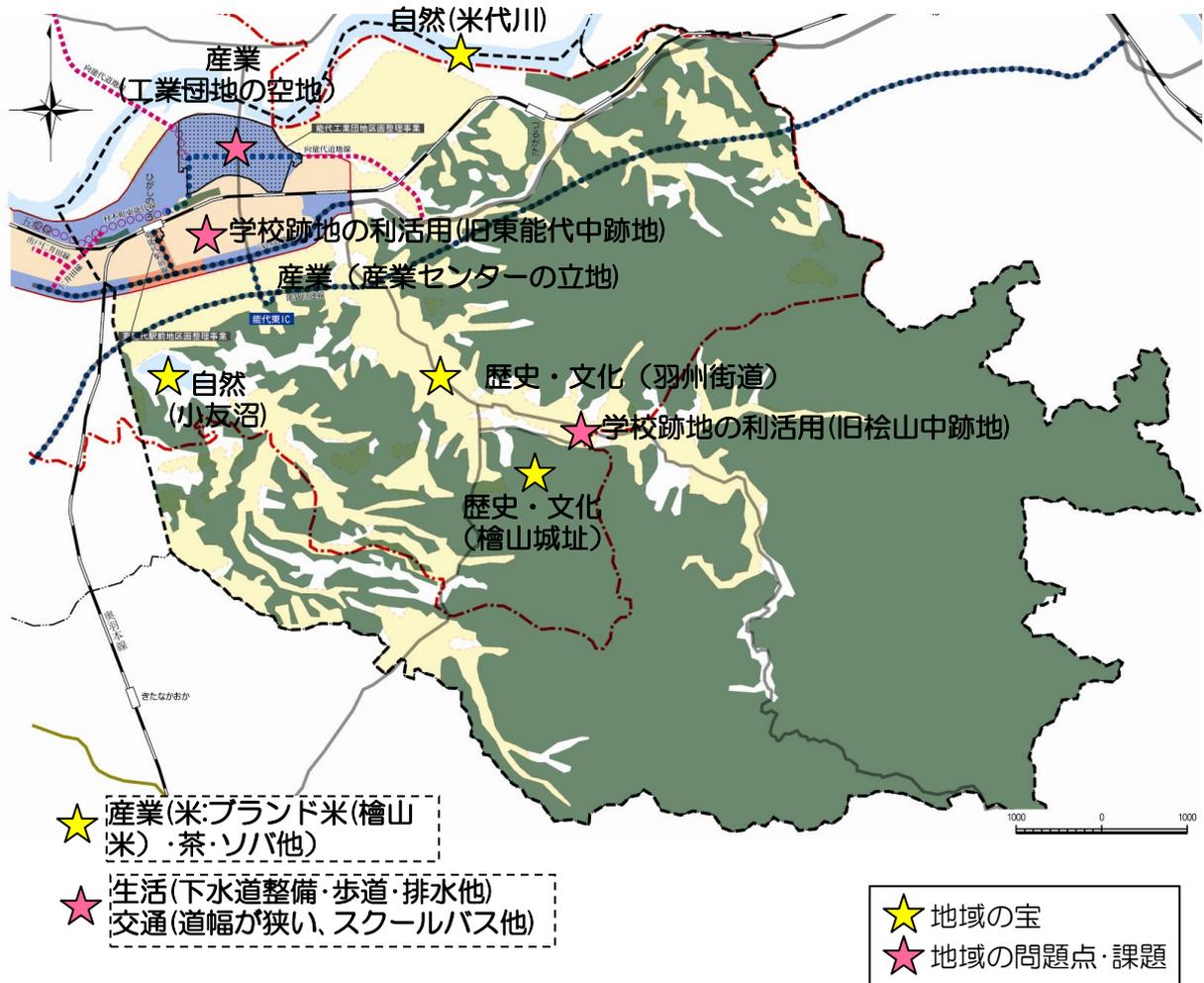
## ■地域の宝と問題点・課題（上記の良いところ、悪いところからWSで抽出）

地域の宝	地域の問題点・課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史・文化（羽州街道・檜山城址他）</li> <li>・自然（小友沼・米代川他）</li> <li>・産業（米:ブランド米(檜山米)・茶・ソバ他）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活（下水道整備・歩道・排水他）</li> <li>・交通（道幅が狭い、スクールバス他）</li> <li>・産業（工業団地の空地・産業の立地(能代東IC付近)他）</li> <li>・学校跡地の利活用(旧東能代中・檜山中跡地)</li> </ul>

## ■宝の活用方法や問題点の解決方法など（まちあるきポイントに関するWSでの意見）

宝や問題点	意見
①工業団地の空地	農地 空地を開放農地に？菜の花を植えるとか？
	企業誘致 企業の部類をもっと広げて誘致しなければ入って来ないかな。もっとたくさん企業を誘致して欲しい。
②学校跡地	地元管理 地元の協力体制が必要、管理会を設ける。
	活用 大規模な研修施設の建築、広い空地にスポーツ施設を。観光センター的機能をもつ高齢者対象の関連施設等に活用。
③IC付近	その他 イオン問題を解決して欲しい。高速道路を東北道、大館とつなげてください。能代東IC付近に大型バスの立ち寄れるような産直センターがあれば市や地域の人も良いのでは。
④小友沼	遊歩道 小友沼を一周出来るような遊歩道・散策コースの整備。
	その他 桜並木、ラムサールへの活動。
⑤多宝院	活用 面として市全域での活用。
	保全 大きな枝垂れ桜を長く見ていくために、大切に。
	PR PRが必要ではないでしょうか。
	復元 山内はかかなり荒廃しているが、これを復元したい。
⑥檜山安東氏城館跡	活用 面として市全域での活用。
⑦まち歩き	活用 面として市全域での活用。
⑧羽州街道	活用 面として市全域での活用。
	保全 あんまり人の手は入れない方が可。
	整備 檜山から鶴形間を整備し、ウォーキングが出来るように。
⑨鶴形周辺	その他 地場産で協力。
	整備 街なみを整備することが必要。
	農業 米代川の流れ、河川敷を利用したの農業。
⑩桜並木（車窓）	活用 今後の活用に期待する。
	育成 これから大事に育てて立派な桜にして欲しいと思います。
⑪その他	整備 空地等を使ってスポーツ施設を整備して欲しい。

(2) ワークショップで出された「地域の宝と問題点・課題」



(3) 地域住民が描いた夢地図

■地域の夢

ワークショップで出た「地域の良いところ、悪いところ」、「地域の宝、問題点・課題」、「こうしたい！活かしていきたい！」などから、地域の夢を地図にまとめ、夢の実現に向けて「どうしたらよいか」、「自分たちにできることは何か」を考えました。

工業団地の空地・桜並木・交流会館

- ・ 広大な空き地ととらえる
- ・ 工場でなくても雇用の場ができれば
- ・ 畑にしても良い。
- ・ コールセンターのようなものでも
- ・ 老人保健施設（高齢者の雇用も）
- ・ 特区など
- ・ 温泉があると良い
- ・ 桜まつりなどイベント(工業団地とタイアップ)
- ・ 空き地の活用と連携(老人福祉施設)
- ・ 空き地に菜の花
- ・ 交流会館を観光客が立ち寄れるように



小友沼

- ・ ラムサール、老人福祉エリアの拡大(浄化した排水が流入、一部生活排水、湿地が自然浄化)
- ・ 冬場、野鳥の来る時期は簡易な看板、小沼の会、観察
- ・ 遊歩道の再整備



多宝院

- ・ 入場料をとって床を歩かせては
- ・ 殿様の寺



【能代東部地域のキャッチフレーズ】

「歴史と自然の宝庫・長寿のまちへ」

地域の宝（自然・歴史・文化・産業）

米代川河川敷の桜並木

- ・ スポーツエリア
- ・ スポーツをして、花見をして、憩いの場に
- ・ 今後、芝生をはりたいと考えている



鶴形周辺

- ・ そばを食べて運動して(街道を歩く)健康に
- ・ 羽州街道の活用



羽州街道

- ・ マラソン、散策(城跡などを回って街道を歩くイベントをやっていた)
- ・ 檜山から鶴形までの街道を整備したい
- ・ アクセス、ネットワーク、PR、案内
- ・ 国道からのアクセス(沿道の林の木の枝を切るなど)
- ・ 駐車場・白神山地の眺め
- ・ 菜の花、そばの花
- ・ 歩きやすいように整備。
- ・ 休憩所、トイレの設置
- ・ 金刀比羅神社
- ・ 追分の松並木
- ・ 国土交通省の資料



檜山安東氏城館跡

- ・ 周遊できるようになっていると良い。(檜山)寺が多い。(林道がある)(昔、茶店があった)
- ・ 歴史を知ることのできる資料館など(地域全体)。案内図も。
- ・ 満点の星
- ・ 市街地を一望(絶景)
- ・ 檜山城まつり

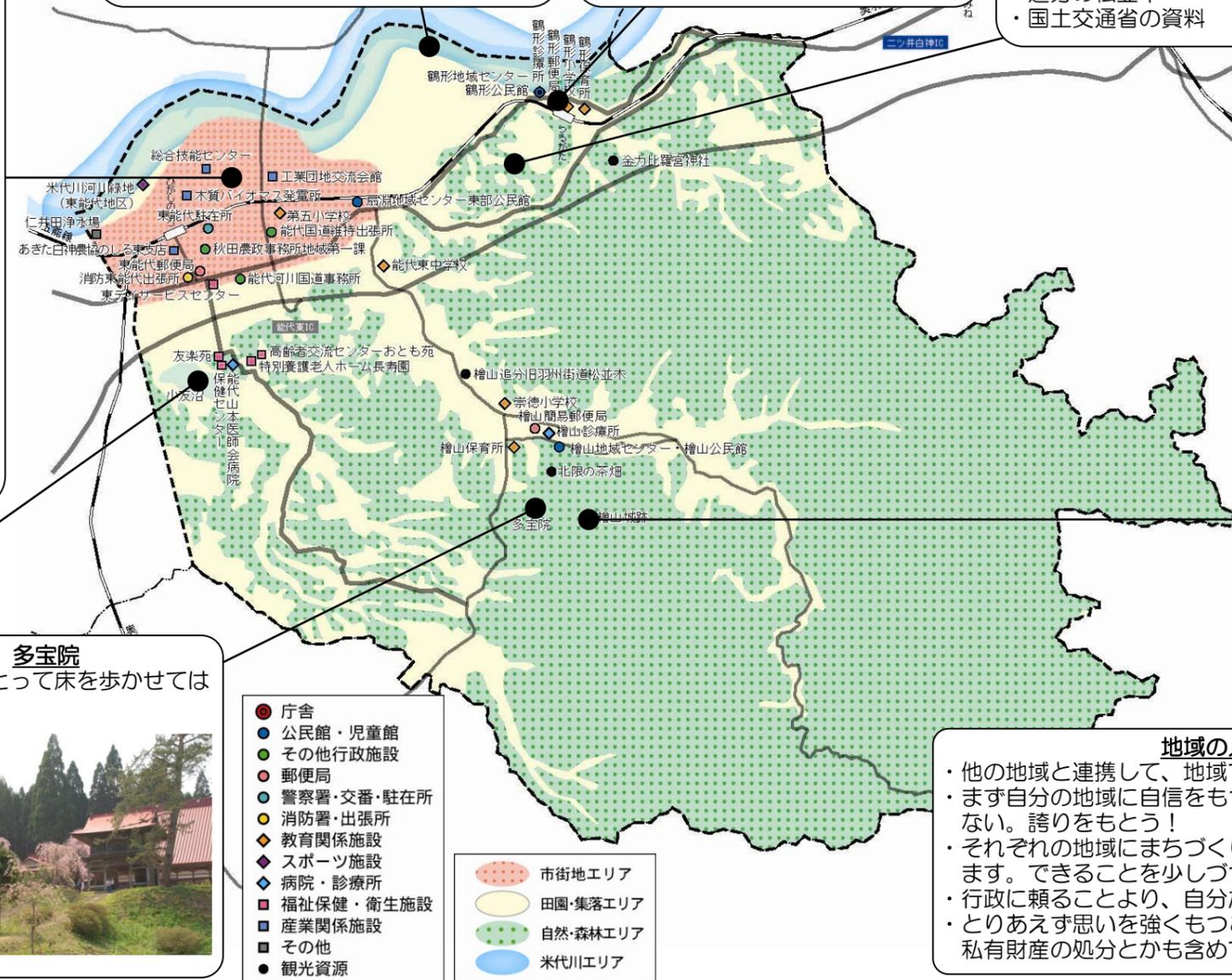


その他

- ・ 歴史の町檜山を中心に周遊でき、なおかつ体験できる施設があり、地域と一体となったまちづくり。

地域の人たちができること

- ・ 他の地域と連携して、地域のできることから少しずつ下の世代へ継承
- ・ まず自分の地域に自信をもつこと、地元住民が沈んでいてははじまらない。誇りをもとう！
- ・ それぞれの地域にまちづくり協議会があり、素晴らしい活動をしています。できることを少しずつ行い、協力しあうことが近道では？
- ・ 行政に頼ることより、自分たちが何ができるかだと思おう。
- ・ とりあえず思いを強くもつことが必要だと思います。場合によっては私有財産の処分とかも含めて…。



## 6-5 能代南部地域

## (1) 地域住民のまちづくりに関する意見（ワークショップから）

## ■地域の良いところ・悪いところ

分類	良いところ	分類	悪いところ
施設	・小学校が新しい、中学校が近い	住環境	・子どもだけで遊べなくなっている ・少子化問題 ・子ども(幼児)を遊ばせる公園や子どもの遊べる場所が少ない、冬期間は特に家に引きこもりがち ・浄化槽の整備がなされていない ・浅内鉱さい堆積場跡地 ・JAや銀行のATMがなくお年寄りには不便 ・昔は不審者がいない、子どもが多かった
住環境	・赤沼運動公園 ・不審者がいるとすぐにわかる ・子ども達の見守り隊、スクールガード組織している		
道路交通	・交通の便がよくなった ・能代南インター、南の玄関	道路交通	・交通の便が悪い、道路・歩道が狭い ・朝・夕の通学時に歩行者が危ない ・登下校の時間帯交通が激しい(四小) ・街路灯が少なく夜の道路が暗いため、通学が心配 ・車でしか公園に行けない ・浅内地区 国道7号が市道になってから冬の除雪車がいまいち！ ・道路で昔は遊んでいた(坂スケート)
歴史文化	・栗田神社 風の松原の功績 ・河戸川の益踊り 650年 ・なごめはぎ 浅内 ・自治会では高齢者婦人部会等に一度食事会及び講師を呼んで講演会を開いております ・柏子所、相染森、塩干田の歴史文化 ・昔から古い集落はお祭りなど盛んでよいと思う		
自然景観	・地域桜の木の下で花見。桜まつり ・河戸川桜並木をイルミネーションにしている ・南中からの白神山地の景色が良い ・松林でキノコ採りできる ・浅内沼・大沼小沼の自然、野鳥観察や魚つりができる ・田んぼでスケート ・南中周辺の田んぼ風景は中学生の思い出の景色になる ・R7の松並木は日本一と思う	自然景観	・海で遊べない、民有地の松林がすごいゴミ
産業	・風車のある風景、新しい食事処、うどんすきの石川さん ・フランス料理、NPOの移動販売 ・河戸川の野菜団地のおいしい野菜 ・木高研やロケットセンター ・木材工業団地、木材展示場、売場	産業	・昔からの個人商店が少なくなってきた、買物が不便になってきている
イベント交流	・能代宇宙イベント ・若者は協力的です ・大内田の自治会館は、大きく利用率が高い ・浅内小(新しい学校、地域連携施設)	イベント交流	・市からの情報が弱い ・地震前は子供のレクリエーション網引きなどやっていた ・お年寄りが集まる場所が少なくなった ・地域のイベントなどが少ない ・高齢者との意見調整が難しい ・南部公民館祭への参加が特定の人達になってきている ・連合会行事がなくなったため交流が少なくなった ・3年くらいの間にイベントが少なくなった ・全体的に協力し合う気持ちがなくなってきた
生活人	・地域の巡回している ・送り迎え・ふだんの生活が良い ・大きな事件がない ・道で人と会うと挨拶を交わしあう ・住人が顔見知りなので安心して生活でき、近所との付き合いがあるため、何事も協力を得ることができる		生活人

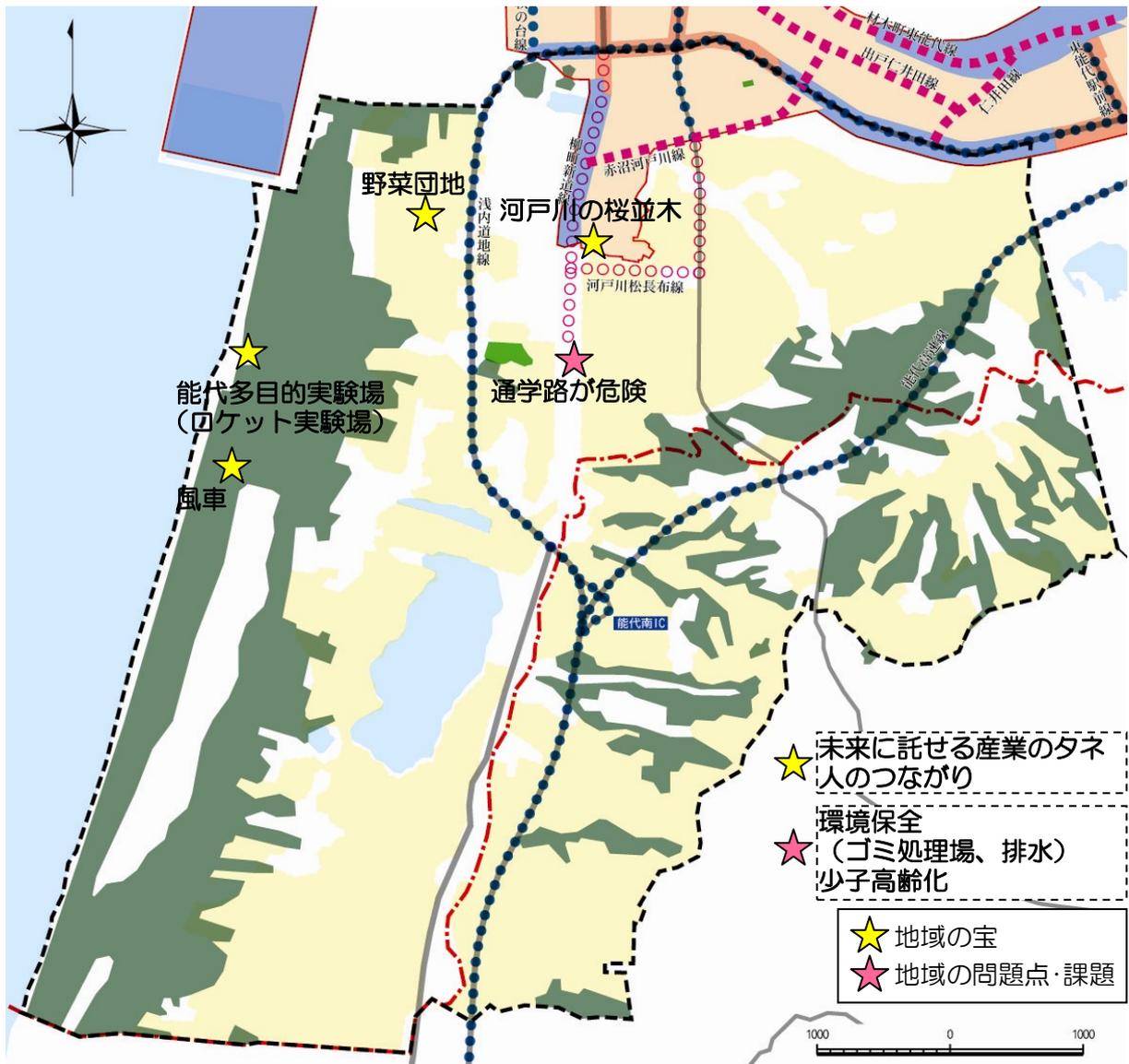
## ■地域の宝と問題点・課題（上記の良いところ、悪いところからWSで抽出）

地域の宝	地域の問題点・課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未来に託せる産業のタネ</li> <li>・ 河戸川の桜並木</li> <li>・ 人のつながり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通学路が危険（街路灯、歩道）</li> <li>・ 環境保全（ゴミ処理場、排水）</li> <li>・ 少子高齢化</li> </ul>

## ■宝の活用方法や問題点の解決方法など（まちあるきポイントに関するWSでの意見）

宝や問題点	意見	
①河戸川桜並木	人	住民の活発な活動、村おこし意識を高めていく。 今は先に立ってくれる人が居るので良いが、今後、地域を盛りたてていってくれる次世代の人材育成が重要と思いました。
	イベント	桜イルミネーション、ちょうちん、まつりに補助は出来ないか？ イベントがあるのを知らなかったなので、もっと広報に力を入れたいのではないかと。
		桜祭りは続けていってもらいたいと思います。
②通学路歩道	整備	現在の歩道はやはり狭い、車道を少し狭めて、歩道を拡幅できないか。とくに狭い歩道にあっては、融雪道路にした方が良いのではないかと。また交通安全の視点で拡張の方法を検討。 部分的にでも良いので、ガードレールを設置するなどした方が良いと思う。全体的に設置すると車道に一度出てしまった自転車が歩道に戻れなくなるので。
	規制等	工事で歩道を広げるのが無理ならば、30分だけでも交通規制で車を止められないか。（浅内沼から民宿さかえ手前の信号機まででも） OBの方などにスクールガードとして協力してもらえたら。
③国道沿い	保全	松林を守っていかないといけないと強く思いました。
	直売	河戸川がねぎで有名なのは知られているので、バイパス沿いに「みちの駅」のような浅内～河戸川の農家の方の作物を集めて販売しても良いと思う。
④風車	道路	道路が悪く一本しか無いので、サイクリング道などで活用。
	イベント	「風」の町として、風車・松林・ロケット実験場（火力も）をうまく結びつけて何か出来ないか？ 風にちなんだイベント等出来るのでは。凧上げと一緒にとか。
⑤多目的実験場（ロケット実験）	イベント	これからの子どもたち、他の地域の子どもたちの遠足などにも活用してもらいたい。 PRイベントなど経済交流をもっと盛んにするため、風車・火力とうまく結び付けてアピールして欲しい。
		全国的にも珍しいロケット実験場なので、もっとアクセスを良くしたり、市民の方々にも気軽に見学に行けるようにして、どんどんアピールしていけば良いと思う。子どもたちだけでなく大人も参加できるイベントなどがあれば良いと思う。
	その他	見せるための工夫（観光用に）が、もっと欲しい。
⑥野菜団地84ha	活用	地域のみなさんと一緒に作った野菜を販売して欲しい。 道路舗装など、散歩やサイクリングが出来るように。市民農園の設置や即売会など。
⑦その他	その他	自治会館など管理マナーを守り、多目的に使えるものが欲しい。
		各施設を回るサイクリング道路を作ったら面白いと思う。
		今回初めて行く場所・お話で、とてもためになりました。
		全体的に名所はあるが、アクセスが悪くここから始めるべき？

(2) ワークショップで出された「地域の宝と問題点・課題」



(3) 地域住民が描いた夢地図

【能代南部地域のキャッチフレーズ】  
**「能代の玄関口、海辺を楽しめるまち」**  
 地域の宝（未来に託せる産業のタネ・河戸川の桜並木・人のつながり）

**■地域の夢**  
 ワークショップで出た「地域の良いところ、悪いところ」、「地域の宝、問題点・課題」、「こうしたい！活かしていきたい！」などから、地域の夢を地図にまとめ、夢の実現に向けて「どうしたらよいか」、「自分たちにできることは何か」を考えました。

**野菜団地**

- ・子供が収穫できるじゃがいも掘り
- ・ねぎを地域ブランドに、ねぎを使って料理



**能代多目的実験場**

- ・見学できることをアピール



**風車**

- ・アクセスを良くしたい
- ・PR館のようなもの
- ・学校の社会科学習などに活用



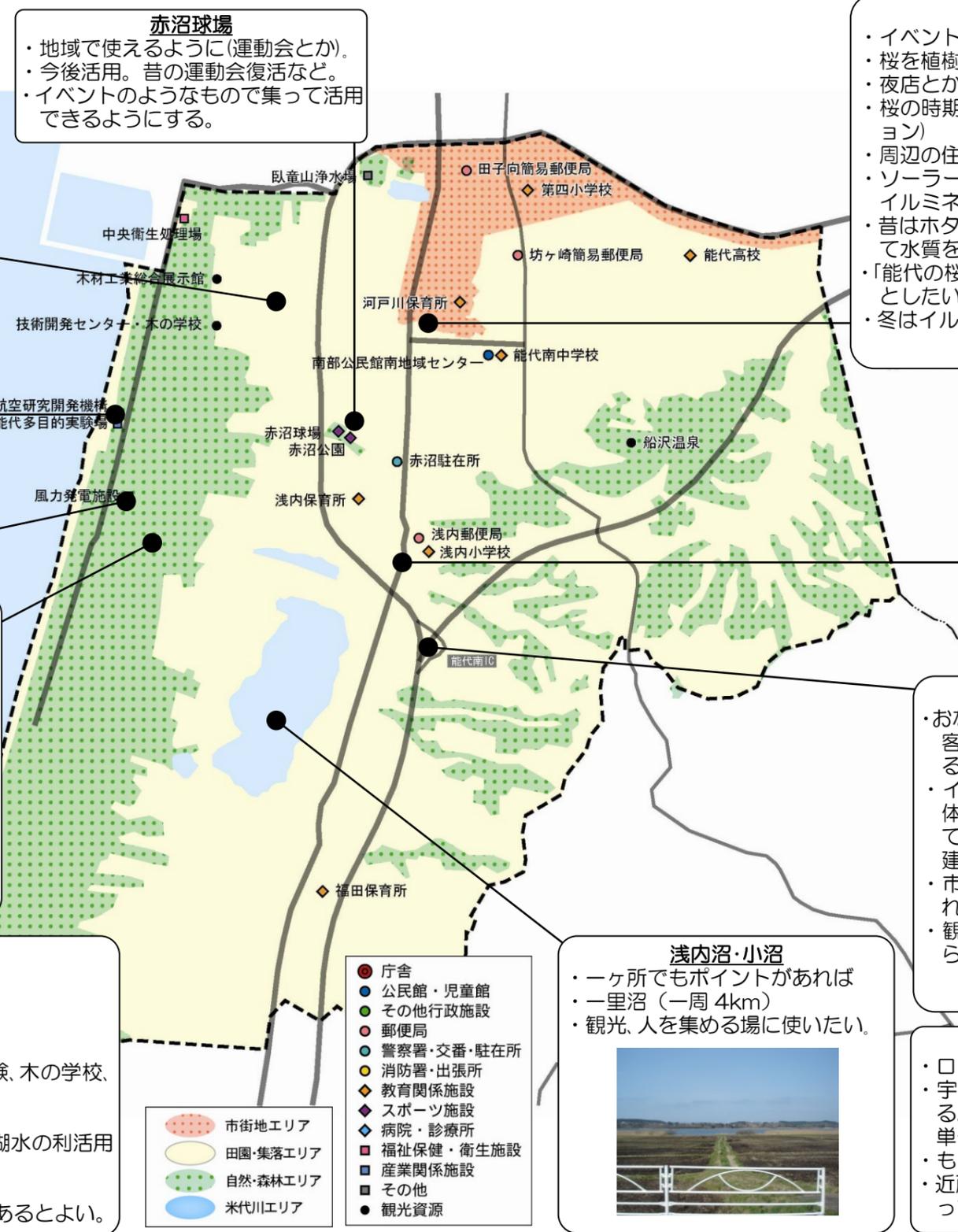
**鉱さい堆積場跡地**

- ・広いスペースを活用したい。アクセスを良くしたい。
- ・風力発電をPRするための施設に活用できないか。(電力会社に提案など)



**その他**

- ・宿泊体験やバーベキューなどができる場所になるとよい。
- ・海山を楽しめる場、海水浴場
- ・子供が遊べる場所
- ・サイクリングができるとうい。
- ・能代南インターがあるので、宇宙科学研究所内の見学及び体験、木の学校、風車、周辺をめぐるような観光客が集まれるようにする。
- ・観光の人を集める場に。
- ・国道7号線市内に入る玄関口に(南インター含む)ある浅内沼湖水の利活用
- ・風車、ロケットをアピールしたい。
- ・中央の松原とは違う良さがある。
- ・夕日スポット(海岸)へのアクセス改善と車の停める場所があるとよい。



**赤沼球場**

- ・地域で使えるように(運動会とか)。
- ・今後活用。昔の運動会復活など。
- ・イベントのようなもので集って活用できるようにする。

**河戸川桜並木**

- ・イベントの場
- ・桜を植樹
- ・夜店とか何か飲食物を出せれば
- ・桜の時期は将来ライトアップしたい(四季のイルミネーション)
- ・周辺の住民で協力してできるようなもの
- ・ソーラー(エコな電気)を使ってイルミネーションなど
- ・昔はホテルがいた。川を狭くして水質を良くする
- ・「能代の桜といえば河戸川の桜!」としたい。
- ・冬はイルミネーションをPR!



**通学路**

- ・歩行者、自転車、車が分離できれば良い。
- ・安全に通行できるようにしたい。



**能代南インターチェンジ周辺**

- ・おなごりや花火大会等で南インターを利用する観光客が増えるので、その機会にもっと能代を印象づけるためにもインターそばに何か欲しい。
- ・インターには市全体の産直物産として揃え、道の駅を建設する。
- ・市全体の産直があればよい。
- ・観光客に降りてもらえるように。



**浅内沼・小沼**

- ・一ヶ所でもポイントがあれば
- ・一里沼(一周4km)
- ・観光、人を集める場に使いたい。



**地域の人たちができること**

- ・ロコミ作戦
- ・宇宙研究所を地元の人々がまずは見学に行ってみる。そこに風車も見れる(市バス利用して各自治会単位で利用してみたら)。
- ・もっと交流する機会があったら良いと思う。
- ・近所どうし、地域どうし連帯感が生まれることによって物事の進行がスムーズになると思う。

## 6-6 ニツ井地域

## (1) ニツ井地域住民のまちづくりに関する意見（ワークショップから）

## ■地域の良いところ・悪いところ

分類	良いところ
イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きみまちマラソン（各地に走りやすいコース）</li> <li>・郷土芸能の発表会（11/3）</li> <li>・各地区で伝承されている伝統芸能夏（8月上旬）の杉の里祭</li> </ul>
産業資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木工芸品</li> <li>・あさひの森（ステンドグラス）</li> <li>・めぐみ園</li> <li>・ゼオライトの活用 製品など</li> <li>・生産と消費が近い</li> <li>・「いすべ」みんなが読む</li> </ul>
施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高岩神社</li> <li>・高丘神社</li> <li>・県立高校がある</li> <li>・松風荘（公域の施設）利用方法</li> <li>・木造校舎（切石、田代、仁鮎、種、天神、ニツ井）</li> </ul>
食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やまめ、イワナ、どじょう、川のカニ、鮎</li> <li>・ウド、種の梨畑、山菜、あけび</li> <li>・ブルーベリー園</li> <li>・レストラン食堂</li> </ul>
生活基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・井戸水がおいしい</li> </ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>・恋文神社、三社堂、兜神社、よい神社、塩井、麻生のお寺</li> <li>・きみまち阪公園、七岩山観光</li> <li>・白神山地入口</li> <li>・五能線ライン入口</li> <li>・きみまち阪の四季</li> <li>・七座山の景色</li> <li>・有名（高尚）な和尚さんがいる</li> <li>・自転車のまちづくり</li> <li>・天神さん</li> </ul>
自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル</li> <li>・いちょう神社（银杏あり）</li> <li>・釣りのポイント</li> <li>・米代川の河川環境</li> <li>・郷土の森</li> <li>・鳥野岱地原野</li> <li>・トイレが good</li> <li>・自転車のまちづくり</li> <li>・カモンカの出現</li> <li>・秋田杉</li> <li>・整備された林、されない林</li> <li>・田園</li> <li>・桜、お越水</li> <li>・観光ホテルさんから見る米代川</li> <li>・霧の町</li> <li>・鮭が身近で見られる</li> <li>・桜山、切石小学校で管理</li> <li>・紅葉</li> <li>・カヌー 米代川からの景色</li> <li>・スキー場（切石、中山、仁鮎、種、富根）</li> </ul>

分類	悪いところ
イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの継続ネットワーク化していない</li> </ul>
産業資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究機関がない</li> <li>・休耕田が多い</li> </ul>
施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノルディックをるところがない</li> <li>・雪がつきにくい中山スキー場</li> <li>・耳鼻科、眼科、整形外科がない</li> <li>・里帰り出産ができない</li> <li>・老健施設が充分でない</li> <li>・ニツ井小の移転</li> <li>・仁鮎小、保育園、廃校になった種梅小</li> <li>・公共施設（学校、保育園）等の統合</li> <li>・秋田自動車道が未完</li> <li>・マッサージなどのリラクゼーション施設が欲しい</li> <li>・矢神荘</li> <li>・温泉施設がない</li> </ul>
食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おみやげ品がない</li> <li>・きみまち阪食堂がなくなった</li> </ul>
生活基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らしと空家</li> <li>・国道から街が離れている</li> <li>・道路整備</li> <li>・夜は真っ暗</li> <li>・下水道がない</li> <li>・上水道、水質の差</li> <li>・人口減少</li> <li>・地元の人が地元の良さに気づいていない</li> </ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊施設がない</li> <li>・キャンプ場がない</li> <li>・観光ホテル、ヘルスセンター</li> </ul>
自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園の魅力がわからない</li> <li>・猿被害（散歩は危険）</li> <li>・普通車だともったいなくて行けない</li> </ul>

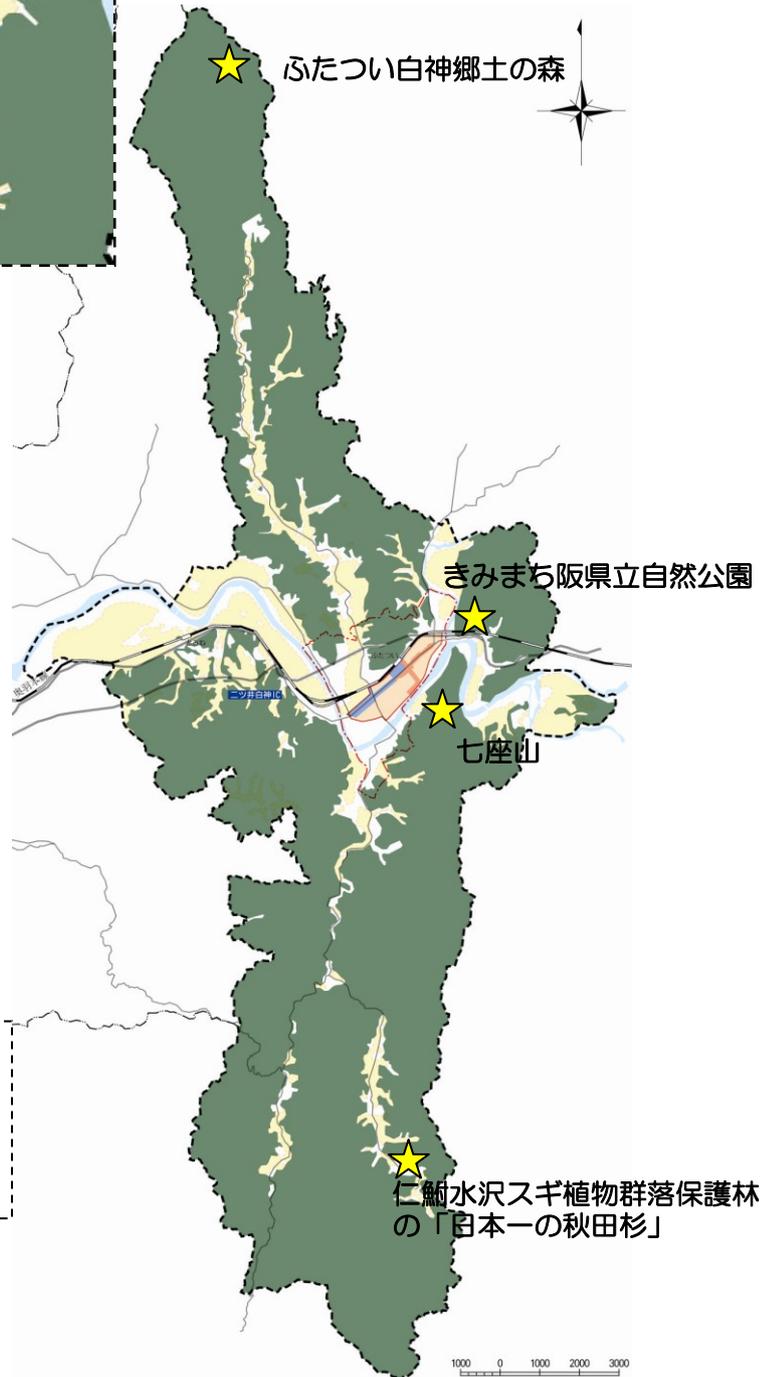
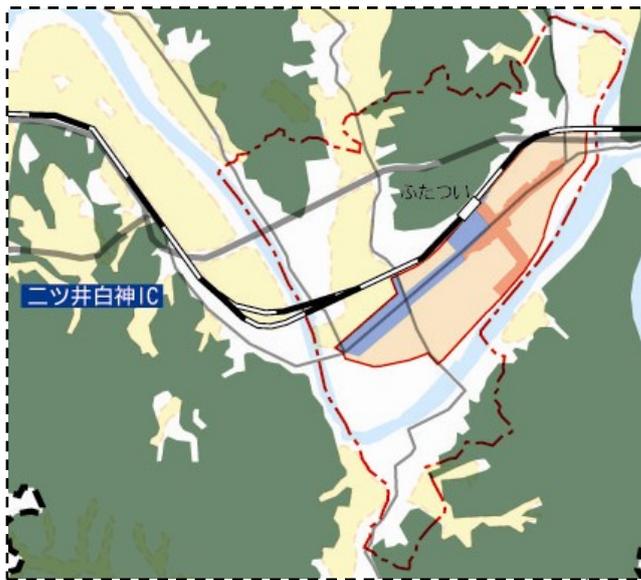
## ■地域の宝と問題点・課題（上記の良いところ、悪いところからWSで抽出）

地域の宝	地域の問題点・課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然、四季</li> <li>・郷土芸能</li> <li>・おいしい食べ物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人のネットワーク、イベントの継続、資源の活用ができていない</li> <li>・観光客がお金を落とす場がない（宿泊等）</li> <li>・災害に対する不安</li> <li>・生活基盤（地域差）、上下水道</li> </ul>

## ■宝の活用方法や問題点の解決方法など（まちあるきポイントに関するWSでの意見）

宝や問題点	意見	
①銀杏山神社 (いちょう神社)	PR	すばらしい歴史があるので、入口とか大きくアピールした方が良いと思います。
		地域の方しか知らない神社のお祭りの様子を知りたい。
	解説	関わりのある人物の写真またはイラストで子供にも印象に残るいわれを記載出来たらどうでしょうか？
②七座神社	PR	道路幅をもう少し広げて、大きくアピールできるようにした方が良いと思います。
	活用	毎年観光協会主催のカヌー川下りに参加しておりますが、カヌーの発着場所にしてはどうでしょうか。
	その他	七座山、米代川との対面の景観。
③きみまち阪 県立自然公園	整備	年中見学出来るような整備をして欲しい。
	イベント	桜の時期に企画してもらえば、もっときみまち阪の良さが出ていたのではないかな。
	解説	ビューポイントの看板がありましたが、例えばそのポイントに行った時に、写真を撮る方向などのアドバイスまたは実際の写真などがあると良い。
	宣伝	宣伝を考える。
④桜並木	サイン	看板とか車でも見えるようなものを出した方が良い。
	整備	トイレ・飲み水。
	その他	川向い（仁鮎側）にも桜並木。
その他	情報発信	ブログを活用して、〇〇町とかで紹介していくのではなく、特定の言葉で（検索されやすいように）情報を発信。
		フリーペーパーを活用して地域の情報を伝える。
	施設活用	廃校になった立派な建物を残していくため、いろいろな活動に利用。
	名物	ジャップ（シャーベットの様なもの）を活かす。

(2) ワークショップで出された「地域の宝と問題点・課題」



- ★ 豊かな自然、四季  
郷土芸能  
おいしい食べ物
  - ★ 人のネットワーク、イベントの継続、  
資源の活用ができていない  
観光客がお金を落とす場がない  
(宿泊等)  
災害に対する不安  
生活基盤(地域差)、上下水道
- ★ 地域の宝  
 ★ 地域の問題点・課題

1000 0 1000 2000 3000

(3) 地域住民が描いた夢地図

【ニツ井地域のキャッチフレーズ】  
**「住み続けたい里、帰りたくなる郷、ふたつい」**  
 地域の宝（豊かな自然、四季・郷土芸能・おいしい食べ物）

ふたつい白神郷土の森  
 ブナ林を主体とした天然林を保全していく。

■地域の夢

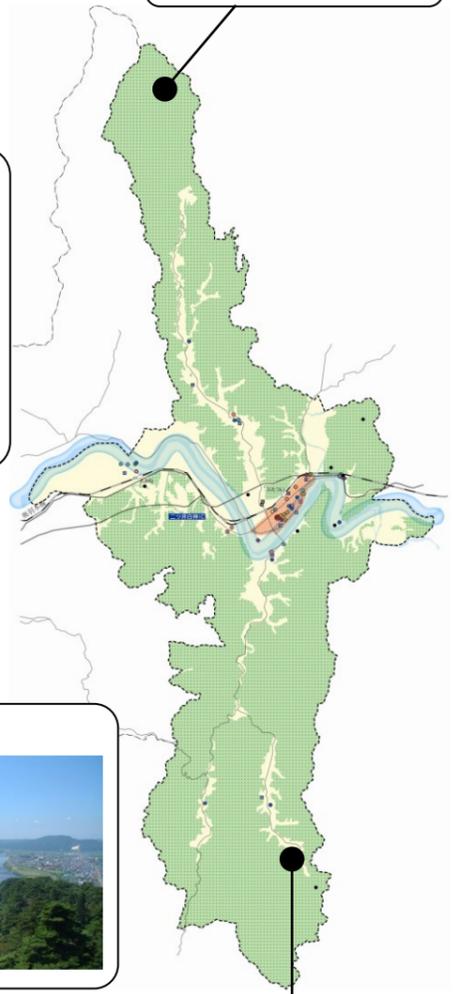
ワークショップで出た「地域の良いところ、悪いところ」、「地域の宝、問題点・課題」、「こうしたい！活かしていきたい！」などから、地域の夢を地図にまとめ、夢の実現に向けて「どうしたらよいか」、「自分たちにできることは何か」を考えました。

ニツ井にある7つの部落  
 それぞれ特徴ある郷土芸能、伝統工芸などがあり、教える人が少なくなっているが、ずっと伝承していく。

ニツ井駅前の案内所  
 駅前に案内所があり、ニツ井の観光案内だけではなく、まちなかの店等を紹介できるような場に。



きみまち阪県立自然公園



七座山

仁鮎水沢スギ植物群落保護林  
 日本一高い杉（秋田杉）を保全していく。

**まちなかと駅前通り**

- ・人が歩きやすい道路に。
- ・閉めた店舗等を利用して発表や展示ができる場に。
- ・ニツ井駅をおりてから、魅力のあるビジュアル的な通りに。(例えば、人気のあるラーメン屋等がニツ井にはあることから、ラーメン通りなどにしたら。)

**木材を活かしたまち**

- ・きれいな木造建築のあるまちに。
- ・木材産業を中心とした働ける場に。

**種梅川**  
 鮭の遡上が見られる。

**銀杏山神社**  
 観光化されなくて、郷土の誇りになっていくような神社に。

**ニツ井のいわれのある多くの神社**  
 どういった神社なのかを整理して、地域の人たちがまずは知り、子供も学べ、伝承していく。

**地域の人たちができること**

- ・ブログを活用して、〇〇町とかで紹介していくのではなく、特定の言葉で（検索されやすいように）情報を発信していく。
- ・手作りマップを作る。どこに何があるといったマップではなく、道順や移動時間等を載せる。また、実際に行った人の感想など、特徴的なコメントをのせる。
- ・フリーペーパーを活用して地域の情報を伝える。
- ・廃校になった立派な建物を残していくため、いろいろな活動に利用していく。
- ・ジャップ（シャーベットのようなもの）を活かす。
- ・仕事や学校以外で余暇を楽しもうとする心のゆとりを持つこと。
- ・余暇を楽しむことへのイメージを考えるような啓発（勤勉が美学ではないということ。自殺予防にも深くつながる）。
- ・町全体で“帰りたくなる郷、ふたつい”の大イベントを行い、地元の良さをアピールする、その時町民全体が一体となり協力する（若杉国体の時のように）。

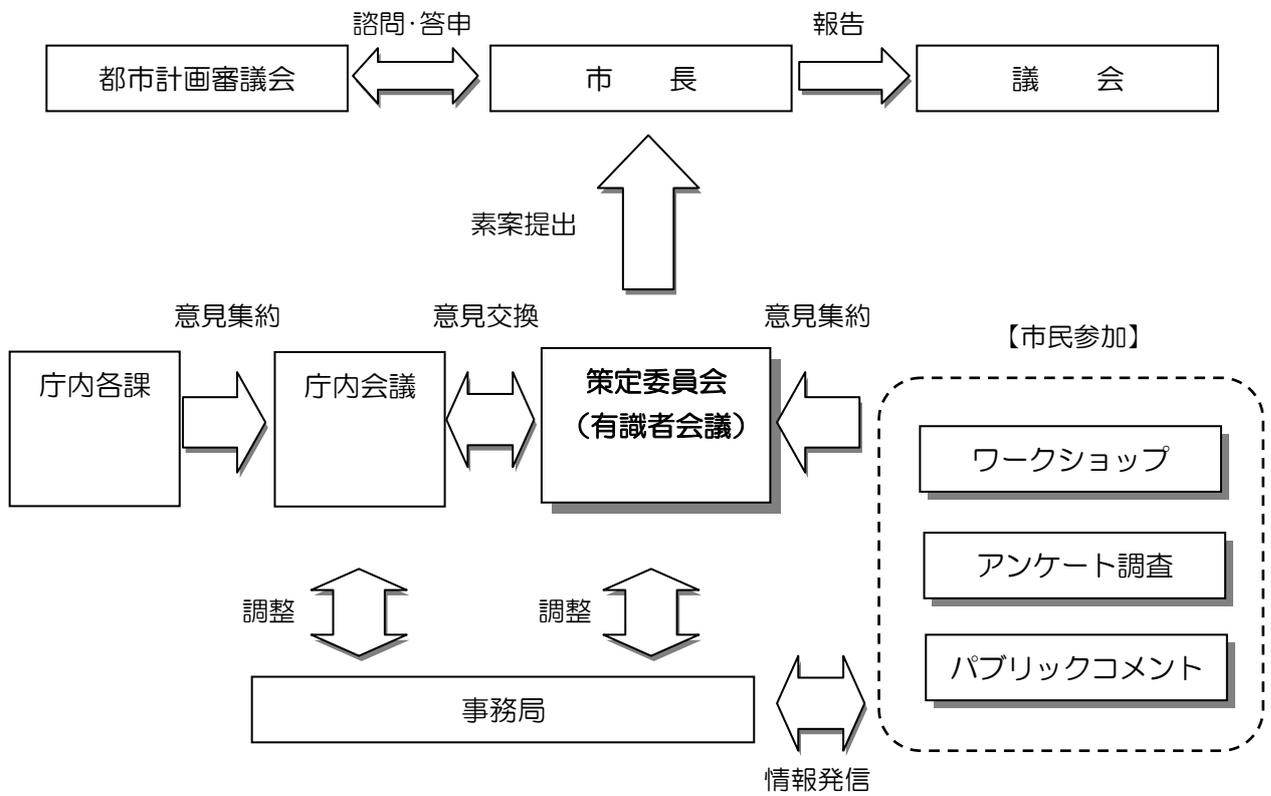
**その他**

- ・廃校になった小学校舎や、閉めた店舗の活用
- ・木工芸や農作業体験、梨狩り体験ができるようにして上記とタイアップ。
- ・温泉施設+マッサージ、エステなどの複合施設にリフォームする。
- ・少子高齢化により、地域がさびしくなっている現状では都会に住む地元出身者や田舎暮らしに関心のある定年退職者などにアピールして、Uターン、Aターン、Fターン(ニツ井)をうったえ、空家や廃校、廃施設などを利用して、人を住ませにぎわいを取り戻す。

● 庁舎	● 公民館・児童館	● 市街地エリア
● その他行政施設	● 郵便局	● 田園・集落エリア
● 警察署・交番・駐在所	● 消防署・出張所	● 自然・森林エリア
● 教育関係施設	● スポーツ施設	● 米代川エリア
● 病院・診療所	● 福祉保健・衛生施設	
● 産業関係施設	● その他	
● 観光資源		

# 資 料

1 策定体制



## 2 策定経過

検討項目		主な出来事
平成20年度	現況調査	10/16 庁内検討会（第1回）
	↓	10/20 策定委員会（第1回）
	↓	11/ 8 ワークショップ（第1回）
	↓	11月～12月 アンケート調査
	↓	2/10 庁内検討会（第2回）
平成21年度	課題の整理	2/13,14 ワークショップ（第2回）
	↓	2/23 策定委員会（第2回）
	↓	3月 アンケート調査（転出者）
	基本構想	4/18,19 ワークショップ（第3回）
	○まちづくりの基本理念	5/ 1 庁内検討会（第3回）
	○将来都市像	5/ 8 庁内検討会（第4回）
	↓	5/19 策定委員会（第3回）
	↓	7/24,25 ワークショップ（第4回）
	全体構想	7/31 庁内検討会（第5回）
	○都市構造の方針	8/25 策定委員会（第4回）
	○都市の整備方針	11/13 ワークショップ（第5回）
	↓	11/17 庁内検討会（第6回）
	↓	11/30 策定委員会（第5回）
地域別構想	1/19 策定委員会（第6回）	
○地域の将来像と 主要なまちづくりの方針	1/21～2/3 パブリックコメント	
○地域の夢地図	2/ 9 策定委員会（第7回：提言）	
↓	2/19 都市計画審議会	
↓	3月 策定	
計画の実現化推進に向けて		

### 3 むすびのご挨拶にかえて

能代市都市計画マスタープラン策定委員会 会長 芦川 智

能代市の都市計画マスタープラン策定のお手伝いをして委員会に参加して参りました。

市域の状況把握をふまえ、市民代表の方と話し合いながら当市の将来像を描いて参りましたが、この都市計画マスタープランが機能をし、将来に向けて実効ある都市づくりの計画提案となることを願っていくつかの提言をしたいと思えます。

#### 1. 持続可能な環境づくり

環境問題が取りざたされてから久しいですが、今私たちに問われているのは、いかにして環境を維持していくかであり、人類に与えられた限られた空間としての宇宙船地球号を認識し、その環境を平衡状態に保っていくこと、つまり持続可能な環境として維持していく方策を作り上げていくことはその一つの方法であり、私たちが生活し、生きていくために必要です。

#### 2. 市民参加の地域づくりと行政参加のまちづくり

市民が行政の施策に参加して地域を協力し合って作り上げていくことは今どこでもやられている手法です。今後一歩進めて、市民が自主的に活動を起こし、それに行政が協力してまちづくりを行っていく気運を作り出していくことが意味のあることではないでしょうか。

#### 3. 相互依存と相互扶助の気持ちを

環境を作り上げていく施策は、単に行政に頼ってはいけません。個人・団体・企業・行政等がそれぞれの役割を認識し、環境形成に対する役割分担をし、それぞれが助け合っているながら、作り上げていく体制が意味を持ちます。地域環境は日の当る部分と陰になるところがどうしても出ます。その場合にお互い助け合っていく精神が必要となるでしょう。

#### 4. 時代の要請に対応する柔軟な体制づくり

国際化の時代で、国際情勢が各種行政に影響力を及ぼす時代で、常に変化要因が潜在的に存在しています。このような時代にどのような要因にも柔軟に対応する体制が望まれます。そのため、枠組みは緩く意識を高く設定し、常にかえられる部分とかえない部分とを明確にしておくことが必要でしょう。

#### 5. 情報化時代の IT 技術の活用

情報公開制度とともに、情報をいかに整理し、活用していくかの手法を市政として作り上げることが必要です。市民の情報を吸収すると同時に、市民への情報の提供手段を整備し、双方向の情報の流れを市政の中で作り上げていくことが重要となります。

#### 6. 能代市の良さを最大限に活用

都市計画マスタープラン策定を機会に地域のワークショップで多くの能代市の宝を見つけ出しました。地域の方は意外とその認識が薄いと思えます。能代市のそれぞれの地域の宝を大切に、その最大限の活用を地域づくりに役立ててください。

#### 7. 定住化策

高齢化、過疎化の波をどうやって食い止めるかは大きな課題です。今ユニークな地域の魅力を前面に押し出して活性化・定住化を推進する試みが各地で行われています。能代市の宝を活用してユニークな地域活性化策、定住化策を模索して行ってください。

#### 8. 広域的なネットワークの醸成を

生きた地域をつくるには、広域市町村圏での位置、秋田県の中での位置、北東北での位置、大都市圏域との関係でどのようなネットワークを作り上げるかにかかっています。人と人、組織と組織、社会と社会などいろいろな連携が地域づくりの基礎となります。

## 4 策定委員会名簿

氏名	推薦団体等	関連部門	役職
芦川 智	昭和女子大学 生活科学部 教授	都市計画・建築	会長
佐々木 博子	あきた白神農業協同組合 女性部長	農業	副会長
船木 仁	国土交通省能代河川国道事務所 調査第2課長	都市計画・道路等	
浅野 英樹 (H20)	山本地域振興局建設部 企画道路課長	都市計画・道路等	
伊藤 茂 (H21)	山本地域振興局建設部 次長		
岡 大右	能代市社会福祉協議会 能代市ボランティア連絡協議会 副会長	福祉	
堀内 大	社団法人能代青年会議所 ビジョン創造室長	産業	
牛丸 武久	おとも自然の会 幹事	環境	
大高 勇	社団法人秋田県建築士会能代山本支部 理事	建築・防災	
中嶋 日吉	ニツ井町商工会 観光開発ワーキング委員長	観光・交通	
飯坂 雅子	能代市自治会連合会協議会中央部推薦	ワークショップ 中央地域代表	
平塚 新八	東雲地区自治会連合会推薦	ワークショップ 北部地域代表	
小林 寛	常盤の里づくり協議会推薦	ワークショップ 北東地域代表	
大塚 和行	東能代地域まちづくり連絡協議会推薦	ワークショップ 東部地域代表	
堀内 保平	榊地区自治会連合会推薦	ワークショップ 南部地域代表	
山谷 竹美	富根地区区長推薦	ワークショップ ニツ井地域代表	

## 5 ワークショップ名簿

地 域	氏 名	推 薦 者	策定委員 への代表者
北 部	鈴木 誠	向ヶ丘第4自治会	
	駒根 勉	向ヶ丘第1自治会	
	中村 浩三	落合団地自治会	
	平塚 新八	落合自治会	○
	佐藤 佳治	須田自治会	
	木村 正	小土自治会	
	清水 証	笹ノ台自治会	
	八木 一徳	向能代第4自治会	
	米森 栄治	向能代第5自治会	
	佐藤 勝男	吹越自治会	
	小林 一成	荷八田第1自治会	
	中 央	相澤 恵子	中和自治会連合会
須藤 清		中和自治会連合会	
金平 正行		中川原連合自治会	
小林 久悦		中川原連合自治会	
菊地 孝恵		上町自治会	
飯坂 雅子		上町自治会	○
工藤 信康		青葉町第1自治会	
塚本 瑞夫		青葉町第1自治会	
梅田 晋		下川反町1自治会	
浅野 一朗		柳町新道1自治会	
南 部	堀内 保平	榊地区自治会連合会	○
	大高 守	榊地区自治会連合会	
	澤田 寛	榊地区自治会連合会	
	芳賀 昭彦	榊地区自治会連合会	
	大山 幸子	榊地区自治会連合会	
	児玉 晴夫	河戸川自治会	
	大塚 和浩	河戸川自治会	
	原田 理理子	浅内自治会	
	原田 宏揮	浅内自治会	
	原田 由美子	浅内自治会	

地域	氏名	推薦者	策定委員代表者
北東部	小林 寛	常盤の里づくり協議会	○
	工藤 正徳	常盤地区自治会連合会	
	佐藤 鏡子	常盤の里づくり協議会	
	幸坂 登	常盤地区自治会連合会	
	須合 勝治	常盤の里づくり協議会	
	佐々木 優喜 (H20)	常盤の里づくり協議会	
	佐々木 初朗 (H21)	常盤の里づくり協議会	
	松山 正一	常盤地区自治会連合会	
	野村 マス	常盤の里づくり協議会	
	山崎 聖子	常盤の里づくり協議会	
	桐越 範雄	常盤の里づくり協議会	
	齊藤 長幸	常盤の里づくり協議会	
	東 部	大塚 和行	東能代地域まちづくり連絡協議会
浅野 紘美		東能代地域まちづくり連絡協議会	
大越 國雄		東能代地域まちづくり連絡協議会	
佐藤 晃		東能代地域まちづくり連絡協議会	
戸松 郁子		檜山地域まちづくり協議会	
梶原 芳一		檜山地域まちづくり協議会	
鈴木 敬一		檜山地域まちづくり協議会	
小林 良蔵		鶴形地域まちづくり協議会	
渡辺 和吉		鶴形地域まちづくり協議会	
伊藤 三喜		鶴形地域まちづくり協議会	
二ツ井		豊澤 富二夫	二ツ井地区区長連絡協議会長
	新川 美喜子	二ツ井地区区長連絡協議会長	
	菊地 聖子	二ツ井地区区長連絡協議会長	
	山谷 竹美	富根地区区長	○
	高橋 要三	小繋地区区長	
	工藤 晃	切石地区区長	
	伊藤 義広	荷上場地区連絡協議会長	
	野呂 江津子	梅内地区区長	
	畠山 明美	仁鮎地区区長	



---

能代市

NOSHIRO CITY

---